

インドネシア

第三国研修管理ミッション報告書

——家畜疾病診断・防疫計画，地震工学——

昭和61年3月

国際協力事業団
研修事業部

研 管

J R

85-30

インドネシア

第三国研修管理ミッション報告書

——家畜疾病診断・防疫計画，地震工学——

JICA LIBRARY



1056374[0]

昭和61年3月

国際協力事業団

研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 '86. 5. 27	108
	87.9
登録No. 12698	TAD

ま え が き

昭和59年度において国際協力事業団は第三国研修として、開発途上諸国で19コース行ったが、その実態把握のため8チームの調査団を各国に派遣した。

この報告書はその内の1つ、インドネシア国農業省畜産総局の協力のもとに実施している「実畜疾病診断・防疫計画コース」及び同国公共事業省・居住研究所の協力のもとに実施している「地震工学コース」について昭和60年2月15日から同年2月26日まで同国に派遣した第三国研修管理ミッションの調査報告書である。

この報告書は本調査団が実施した昭和59年度の両コースの研修内容及び運営状況に関する評価並びに昭和60年度の両コースの概要についてのインドネシア側との協議結果等を報告し、関係各位のさらに深い御理解をいただき両コースの今後の向上改善に資することができれば幸いである。なお、評価調査にあたっては予めQuestionnaireを準備し、調査結果を具体的な数値で表わすなど調査方法に改善を加えた次第である。

最後に、本調査団の派遣に際し、並々ならぬ御協力を賜った外務省、農林水産省、建設省、在インドネシア日本大使館、及び派遣専門家の各位に深い感謝の意を表します。

昭和60年3月

研修事業部長

宮 本 守 也



「家畜疾病診断・防疫計画コース」の閉講式における石崎団長の挨拶



「家畜疾病診断・防疫計画コース」における評価会風景



「家畜疾病診断・防疫計画コース」研修員とともに。前列右から青木団員，Mr ASMAR，石崎団長，Dr TEKEN，Dr SU KOBAGYO，Dr ADAT



「地震工学コース」閉講式における山村ジャカルタ事務所長の終了証書授与



「地震工学コース」研修員の現場視察風景

目 次

(I) 調査団派遣の概要	1
1. 派遣目的	1
2. 団員構成及び派遣時期	1
3. 調査日程	2
(II) 第三国研修「家畜疾病診断・防疫計画」コースの管理調査結果	7
1. コース設立までの経緯	7
2. コースの概要	7
3. 今年度コース（第1回目）の評価	8
4. 次年度コース（第2回目）の概要の検討	20
1) 次年度コースの概要案	20
2) 次年度コースに関する「イ」側との協議内容	22
5. 本コースの実績・現状	28
(III) 第三国研修「地震工学」コースの管理調査結果	40
1. コースの概要	40
2. コースの歩み	40
3. 今年度コース（第4回目）の評価	41
4. 次年度コース（第5回目）概要の検討	44
5. その他の協議事項	66
6. 本コースの実績・現状	67
別 添 資 料	
(1) 団長書簡（英文－「第1回家畜疾病診断・防疫計画コース」に関する評価の要約）	83
(2) 「家畜疾病診断・防疫計画」の次年度コース概要案	90
(3) 団長書簡（英文－「第4回地震工学コース」に関する評価の要約）	100
(4) 第4回地震工学コース参加研修員から提出のあったRecommendation	111

(I) 調査団派遣の概要

I-1 派遣目的

第三国研修は昭和50年3月タイ・コラート養蚕訓練センターにおいて初めて実施されて以来、その有効性が内外において広く認められ、その結果着実に事業の拡大がなされており、各コースの研修内容、運営状況等の実態を把握し、もって各コースの向上改善を図ることは本事業の実施にとり極めて重要であることは云うまでもない。

本調査団の目的は昭和59年度インドネシア国において実施した第三国研修「家畜疾病診断・防疫計画」及び「地震工学」の両コースについて、研修事業部管理課の作成した Terms of Reference (T/R) にもとずき以下の調査を行うことであった。

(1) 昭和59年度実施の各々のコースの評価

- イ. コース内容に関する事項
- ロ. コース運営に関する事項

(2) 次年度(昭和60年度)に予定される各々のコースの概要(案)の検討

I-2 団員構成及び派遣時期

団長 石崎光夫

JICA研修事業部

管理課長

昭和60年2月15日～昭和60年2月25日

団員 小森哲也

建設省建築研究所

昭和60年2月20日～昭和60年2月25日

青木孝

農林水産省動物検疫所成田支所検疫課

昭和60年2月15日～昭和60年2月22日

海老名捷彦

JICA研修事業部研修二課長代理

昭和60年2月15日～昭和60年2月25日

I-3 調査日程

月 日	場 所	内 容	「イ」側出席者	日本側出席者
2月15日(金)	東京 → ジャカルタ	移動(東京→ジャカルタ) JL 721 (石崎光夫団長, 青木孝, 海老名捷彦両団員)		
	20:30 ~ 21:30 JICA事務所と日程等について打合せ 宿舎(プレジデントホテル)	JICA事務所と日程等について打合せ (山村所長, 佐々木所員)		
16日(土)	8:30 ~ 9:15 JICAジャカルタ事務所	表敬・打合せ		
	9:45 ~ 12:00 農業省畜産総局	○本調査団の来訪目的説明等 ○セミナーの評価会出席 クエスチョネアー配布・回収・討議参観	Drh. I.G.N. TEKEN TEMEDJA(畜産局長) Drh. SUKOBAGYO PO-EDJOMARTONO(畜産総局家畜疾病監督課長) Mr. PARING ASMARA (同総局総務課長) Drh. ADAT PERANGIN (メダン家畜衛生センター所長) Drh. SOFJAN SUDAR-DJAT(畜産総局家畜疾病防疫課長)	石崎光夫団長(JICA) 青木孝団員(農林水産省) 海老名捷彦団員(JICA) 佐々木ジャカルタ事務所員
	13:30 ~ 15:30 CAKUNG屠殺場	研修員の見学に同行	Drh. MUSTAFA SAID 同場長	石崎団長 青木・海老名両団員 佐々木事務所員 須藤専門家
	17:00 ~ 19:00 21:00 ~ 24:00 ホテル	クエスチョネアーの集計		
17日(日)	9:00 ~ 12:00 14:00 ~ 18:00 ホテル	クエスチョネアー, カントリーレポート, Induisud Report の集計作業		
	19:00 ~ 22:00 HOTEL MENTENG, JALAN GIKINI- RAYA, JAKARTA	研修員主催のお別れパーティーに参加		石崎団長 青木・海老名両団員 佐々木事務所員

月 日	場 所	内 容	「イ」側出席者	日本側出席者
2月17日(日)	22:30～24:00 ホテル	クエスチョネアー、カン トリーレポート、Indiv- isual Report の集計		
18日(月)	10:00～12:00 農業省畜産総局	(1) コースの評価 「イ」側及び調査団が 実施した調査結果につ いて説明 (2) コースの運営管理に ついて調査 (3) 次回コースの概要に ついて協議	Drh. I.G.N. TEKEN Drh. SUKOBAGYO Drh. ADAT Mr. A.SMARA Drh. SOFYAN Drh. RONNY	石崎団長 青木・海老名両団員 佐々木事務所員
	14:00～14:40 在「イ」日本大使館	表敬 山本書記長		
	19:00～22:00 農業省畜産総局	家畜衛生コース閉講式出 席		
	22:30～24:00 ホテル	クエスチョネアーと In- divisual Report とによ る本コースの評価等		
2月19日(火)	9:00～11:30 農業省畜産総局	次回コースの概要につい て協議	Drh. SUKOBAGYO Drh. ADAT Drh. SOFYAN Drh. RONNY	石崎団長 青木・海老名両団員
	11:50～14:00 レストラン「JADE GARDEN」	畜産総局、日本大使館、J ICA事務所と意見交換	Drh. TEKEN Drh. SUKOBAGYO Drh. ADAT Mr. ASMARA	山本書記官 榎本ジャカルタ事務所次 長 佐々木事務所員
	17:00～19:00 21:00～24:00 ホテル	次回コースのカリキュラ ムについて検討(カント リーレポート、Group Report の分析)	Drh. SOFYAN Drh. TJ IPTARDJO(畜 産総局畜事課長) Drh. RONNY	須藤専門家 石崎団長 青木・海老名両団員
20日(水)	10:50～12:40 技術協力調整委員会	表敬・打合せ ○来「イ」の目的等につい て説明 ○家畜衛生コースについ ての評価について説明 及び地履工学コースの 講師について我方方針 の説明	Mr. HUSEN ADIWIS- ASTRA SH. LIM. (技術協力調整委員会 TCDCプロジェクト課長) Mr. SUPRAPTO BA (技術協力調整委員会 TCDCプロジェクト)	石崎団長 青木・海老名両団員 佐々木事務所員

月 日	場 所	内 容	「イ」側出席者	日本側出席者
20日(水)	13:00～14:00 HOTEL MENTENG	○家畜衛生コースのGI 送付及び応募, 受入回 答状況等について事情 調査 研修員 DR. MD. AZHAR ALI MIAH DR. MD. KALIM- ULLAH MIAH (両名ともバングラデ シュ)よりGroup Fi- nal Reportの作成過程 等について事情聴取		石崎団長 青木・海老名両団員
	14:30～16:30 農業省畜産総局	次年度コースの概要(講 師・機材等)について協 議	Drh. SUKOBAGYO Drh. ASMARA Drh. SOFYAN Drh. RONNY	石崎団長 青木・海老名両団員
	19:00～21:30 レストラン "JUJU"	JICA事務所長主催夕食 会		
	東京 →ジャカルタ	小森哲也団員(建設省) 到着		
21日(木)	ジャカルタ →東京	青木団員帰国(22日)		
	ジャカルタ →バンドン	移動(鉄道) 石崎団長 小森・海老名両団員 佐々木事務所員		
	15:00～19:00 HOTEL PANGHE- GAR	関係者と打合せ 石崎団長, 小森団員は 中田・須藤両専門家と 打合せ 海老名団員, 佐々木事 務所員はMr. TARM- IZI, Mr. VICTOR と主にコースの運営に ついて協議	Mr. TARMIZI MURAD (公共事業省居住研究所) Mr. VICTOR LEAND- ER (公共事業省居住研 究所)	石崎団長 小森・海老名両団員 中田慎介専門家(建設省) 須藤 研 ((()))
	19:30～21:30	在バンドンJICA専門家		

月 日	場 所	内 容	「イ」側出席者	日本側出席者
2月22日(金)	9:00～13:00 居住研究所	(建築関係)との意見交換。 地震工学コースのオーガナイズイングコミティーに参加。 次回コースの概要について協議	Mr. S.M. RITONGA (公共事業省居住研究所 所長) Mr. MURDIATI MUN-ANDAR (居住研究所) Mr. SADIKIN RASAD (居住研究所) Mr. TARMIZI MURAD (居住研究所) Mr. VICTOR LEANDER (居住研究所) Mr. HERLIANTO (居住研究所) Mr. M. RUSDI (公共事業省開発研究所) Mr. P.E. SISWANTORO Mr. SUPRAPTO (技術協力調整委員会)	服部専門家(建設省) 須藤 〃 (〃) 尾池 〃 (京大) 平石 〃 (建設省) 佐々木事務所員 石崎団長 小森・海老名両団員
	13:30～14:30	居住研究所所長主催昼食会		
	14:50～15:20 居住研究所	研修員と面談 クエスチョネアーの説明・回収等		
	16:00～19:00 HOTEL PANGHE-GAR	クエスチョネアーの集計		
23日(土)	9:30～12:00 HOTEL PANGHE-GAR	クエスチョネアーの集計等		
	12:30～13:30 居住研究所	資料の入手 小森・海老名両団員		
	16:00～18:30 HOTEL PANGHE-GAR	クエスチョネアーの集計等		
	19:00～22:00 HOTEL PANGHE-GAR	地震工学コース閉講式出席		専門家 JICAジャカルタ事務所 調査団
	22:00～24:00 HOTEL PANGHE-GAR	クエスチョネアー分析・コメントの作成		

月 日	場 所	内 容	「イ」側出席者	日本側出席者
2月24日(日)	バンドン →ジャカルタ	移動		
	16:00～21:00	家畜衛生コース・地震工		
	22:00～24:00	学コースのクエスチョネ		
	PRESIDENT HO- TEL	アの最終集約作業		
25日(月)	9:30～11:00	家畜衛生コース・地震工		
	JICA事務所	学コースの協議結果とり まとめ並びに家畜衛生コ ース協議メモ(英文)案 作成		
	11:20～12:30	協議メモ案の確認等	Drh. SUKOBAGYO	石崎団長 海老名団員
	畜産総局			
	13:30～15:00	家畜衛生コース協議メモ 作成		
	PRESIDENT HO- TEL			
	15:00～15:30	最終報告, 挨拶		
	JICA事務所			
	ジャカルタ	帰国		
	→東京	JL 722		

(II) 第三国研修「家畜疾病診断・防疫計画」コースの管理調査結果

II-1 コース設立までの経緯

- | | |
|---------|---|
| 昭和58年6月 | 日・「イ」技術協力年次協議 |
| 9月 | 上記協議を踏まえ「イ」国よりの5件の第三国研修候補案件の1つとして我国に要請があった。 |
| 昭和59年3月 | 宮本研修事業部長訪「イ」の際「イ」側関係者と打合わせを行ったところ、本コースが有力な案件の1つとして浮び上がった。 |
| 4月 | 事前調査団派遣（研修実施可能性等を協議） |
| 7月 | 実施協議調査団派遣（R/D署名） |
| 昭和60年2月 | 第1回「家畜疾病診断・防疫計画」セミナー開催 |

本コースの本拠地になっているメダンの家畜衛生センター（メダンD I C）は我国の無償資金協力により1978年にタンジュンカランのD I Cとともに設立されたものである。

メダンD I Cへの技術協力は1977年7月から1984年7月まで技術協力のための討議議事録（R/D）にもとづき家畜衛生プロジェクトとして実施されたが、その間、2度R/Dによりプロジェクトの協力期間の延長がなされた。

本コースはこのメダンに於ける技術協力を通じて蓄積されたノー・ハウ及び研修施設をベースとして、先に「イ」国政府より日本側に提示された5件の第三国研修候補案件の中から取り上げられ、59年度からスタートする運びとなった。

II-2 コースの概要

本コースはインドネシア国農業省畜産総局を実施機関として、国際協力事業団の第三国研修の一環として又、インドネシア国にとってはT C D C (Technical Cooperation among Developing Countries) プログラムの1つとして今年度（昭和59年度）に開設された。

本コースはメダンD I Cを主たる研修施設として約2週間にわたり実施され、講義、討義、カントリー・レポート発表、研修旅行等で構成されている。

参加研修員はアジア・太平洋地域の家畜衛生に従事する上級獣医士15名（内インドネシア人5名）であった。

なお、次回以降の研修テーマ等を選定することも今回のセミナーの目的の1つであり、次年度以降より本格的に開始せられる技術研修に先立つ紹介セミナーと云う性格を持つものであった。

II-3 今年度コース（第1回目セミナー）の評価

(1) 評価の方法

評価方法については調査団があらかじめ用意した質問状 (Questionnaire) を、2月16日(月) 農業省畜産総局において行われた評価会の席上研修員に配布の上趣旨を直接説明し、その場で研修員の回答を得て回収した。

本調査団は回収した質問状の回答結果を同日及び翌17日(日)の2日間をかけて集中的に集計・分析を行い調査団としての考え方まとめた上で、18日(月)の畜産総局における「イ」側との打合せに臨んだ。なお、このあと評価に関するコメントを付し、調査結果を英文にとりまとめ調査団長名にて畜産総局長宛提出するとともに、コピーを大統領府技術協力調整委員会宛提出した(別添参照)。

なお、評価にあたっては別途「イ」側が実施せる Individual Report (JICA "Final Report" に相当)の内容も若干参考にした。

(2) 評価結果

評価結果は候補者の決定から研修員のコース参加にいたる一連のプロセスの中で諸手続きの遅延等、所謂「アドミ」については処善を要する点が若干あるが、コースの内容及び、その実施については概ね評価できると判断される。

なお、念のためこの点に関連し、技調委との協議の際GIの送付から受入回答にいたる処理についてTCDC担当課長Mr. HUSENに質問したところ状況は次のとおりであった。

	GI発送	要請受付日	Aフォーム接収の有無	受入回答日	備 考
タイ (2名)	9/13 シア大使館に送付。 技調委から各国のインドネ	12/6	有 (12/6)	1/22	在ニュージーランド・インドネシア大使館をとおして連絡する。 研修員は2/2受入決定の連絡を受け2/8来「イ」した。
フィリピン (2名)		12/9, 12/28	有 ()	1/22	
スリランカ		1/13	無 (テレックス)	1/22	
西サモア		12/19	有 (12/19)	1/22	
バングラデシュ (2名)		1/19	有 (2/4)	1/24	
マレーシア (2名)		12/14	有 (コース開始後)	1/22	

評価結果の詳細は以下「家畜疾病診断・防疫計画コースのクエスチョネアー集約」のとおりである。

家畜疾病診断コースのクエスチョネアー集約 14名分
(内インドネシア研修員4名)

I コース目的

(1) コース目的の認識度合

完全に知っていたと答えた者	57%
ほぼ完全に知っていた	21%
一応知っていた	14%
全く知らなかった	8%

(2) コース目的の達成度合

完全に達成されたと答えた者	29%
ほぼ達成された	50%
一応達成された	21%

(3) コースに対する期待感の達成度合

完全に達成されたと答えた者	36%
ほぼ達成された	21%
一応達成された	43%

コース目的の認識度合については多かれ少かれ一応知っていた者は92%おり、コース目的の達成度合及びコースに対する期待感の達成度合についてはそれぞれ全員が達成されたと回答しているところほぼ満足すべき結果であると思われる。

II カリキュラムデザイン

(1) 科目の範囲，レベル，時間配分，密度，期間

a. 科目の範囲

適当と答えた者	79%
少々広いと答えた者	21%
狭すぎる或いは広すぎると答えた者	0%

b. レベル

適当と答えた者	86%
少々高いと答えた者	14%
低すぎる或いは高すぎると答えた者	0%

c. 時間配分

講義

適当と答えた者	86%
やゝ多いと答えた者	7%
やゝ少いと答えた者	7%

討義

適当と答えた者	50%
やゝ多いと答えた者	21%
やゝ少いと答えた者	29%

研修員の参加度合(workshop 比較研究)

適当と答えた者	46%
やゝ多いと答えた者	8%
やゝ少いと答えた者	23%
少すぎると答えた者	23%

見学

適当と答えた者	72%
やゝ多いと答えた者	14%
やゝ少いと答えた者	14%

d. 密度

適当と答えた者	79%
やゝハードと答えた者	21%

e. 期間

適当と答えた者	72%
やゝ長いと答えた者	14%
やゝ短いと答えた者	14%

以上より判断して

- (1) 講義及び見学の時間配分並びに期間についてはほぼ問題は無いと考えられる。
- (2) 討義の時間配分についても5割の者が適当と答えており、他の半数が「やゝ長い」或いは「やゝ短い」と答えているが両者相半ばしているのではほぼ適当と思われる。
- (3) 研修員の参加度合については適当と答えた者は5割弱であり又、残りの約半数は少いと答えているところもう少し配分時間を増すことが考えられる。
- (4) 密度について8割弱が適当と答えたものの「やゝハード」と答えた者が20%いることも考え合わせれば全体的に密度は少し緩くすべきと思われる。

(2) トピックス

YESと答えた者 100%

回答者全員が系統的に組まれていると答えている。

コメントとして

- a. カントリー・レポートのプレゼンテーションでは各国の抱えている問題についての討論の時間をもう少し増して欲しい。

- b. 講義ノート，実験室概要等をもう少し早目に入手したい。
- c. 専門分野の講義をもう少し増して欲しい。

等の指摘があった。

(3) 最も人気の高いトピックスと低いトピックス

a. 人気の高いトピックス

- ① FMD Radication Programme in Indonesia (DR. SUKOBAGYO) 64%
- ② Epidemiology (DR. UNRUH) 21%

b. 人気の低いトピックス

- ① 北スマトラの観光 2名
- ② 別紙記載の7項目につき各1名

傾向として人気の無いものの中に見学が多く含まれている。

III コースの実施

- (1) 教授方法 本項目は「イ」側の実施したクエスチョネアー（別添）を参照
- (2) 習得技術・知識の活用

全員が研修で得た技術と知識を帰国後活用出来ると答えており有益な研修であったと判断される。

IV コースの運営管理

(1) コース実施上のコーディネーション

- 良いと答えた者 36%
- 非常に良いと答えた者 43%
- 傑出していると答えた者 21%

(2) 事前のインフォメーション

- 良いと答えた者 29%
- 非常に良いと答えた者 50%
- 傑出していると答えた者 14%
- まずいと答えた者 7%

(3) 研修旅行のアレンジ

- 良いと答えた者 36%
- 非常に良いと答えた者 50%
- 傑出していると答えた者 14%

(4) 宿舎食事（ ）内は第三国からの研修員の比率）

- 良いと答えた者 50%（40%）
- 非常に良いと答えた者 43%（50%）

傑出していると答えた者	7% (10%)
(5) アローアンスの額()内は第三国からの研修員の比率)	
適当と答えた者	79% (80%)
やゝ多いと答えた者	7% (10%)
やゝ少いと答えた者	7% (0%)
少すぎると答えた者	7% (10%)
(6) 交通手段	
良いと答えた者	64%
やゝ良いと答えた者	29%
大変良いと答えた者	7%
(7) 厚生活動	
良いと答えた者	71%
非常に良いと答えた者	29%
(8) 研修員間のコミュニケーション	
良いと答えた者	50%
大変良いと答えた者	21%
傑出していると答えた者	29%

以上の結果から判断してコースの運営管理についてはコーディネーション、見学旅行のアレンジ、宿泊、食事、交通手段、厚生活動、研修員同志のコミュニケーション等に問題は無く非常に良く運営されたと判断される。但し、コースに関する事前のインフォメーション(GI)が不足していると答えた者1名有り。

V 研修結果

一応成果があったと答えた者	14%
非常に	58%
すぐれて	14%
あまり成果がなかった	14%

86%の研修員が成果が得られたと回答しており評価出来ると思われる。

VI まとめ

全体的に云って研修員の本コースに対する評価は非常に高く満足したものと判断される。

但し、一部の見学については研修員に不満が有り、次回コースでアレンジする場合は見学先に
関する事前のブリーフィングも含めて改善策を検討すべきであると考えます。

なお、研修員の一部には見学先を減らし専門分野に関する講義及び実習の時間を増やして欲しいと希望する者があった。

「イ」側実施クエスチョネアリーの集約

「イ」側の実施した本調査は32の各トピックスについて、その

1. 時間の配分
2. レベル
3. 適切性・有用性 (Relevance and Usefulness)
4. 教授方法 (Method of Instruction and Presentation)
5. コミュニケーション (言葉)
6. 研修員の参加度合
7. 教材の質・量

を調査したものであり、調査方法は各項目について3段階により研修員より評価を求めた。

1. 時間配分

適当と答えた者	86%
短すぎる //	12%
長すぎる //	2%

12%の者が短すぎると答えているものの86%が適当と答えており、一応評価出来ると思われる。

2. レベル

適当と答えた者	89%
低い //	8%
高度すぎると答えた者	3%

9割弱が適当と答えておりほぼ適当であると思われる。

但し、Visit Dairy Cattle Coopertion at Karoについては5割強の者がレベルが低いと答えている。

3. 適切性・有用性

適切であると答えた者	75%
非常に //	21%
適切でないと答えた者	4%

96%の者が適切であると答えておりほぼ適切であると判断される。

但し、適切でないと答えたトピックスには見学が多く含まれている。

4. 教授方法

良いと答えた者	81%
非常に良いと答えた者	18%

	まずいと答えた者	1%
5. コミュニケーション		
	良いと答えた者	90%
	非常に "	16%
	悪いと答えた者	4%
6. 研修員の参加度合		
	適当と答えた者	58%
	非常に良いと答えた者	41%
	少し良いと答えた者	1%

4～6についてはいずれも95%以上の者が良い或いは適当と答えており、ほぼ満足出来る評価が得られたと思われる。

7. 教材の質・量

	適当と答えた者	75%
	非常に良いと答えた者	19%
	劣ると答えた者	6%

94%の者が良いと答えているところほぼ満足出来ると思われる。

但し、劣ると答えたトピックスは大半が見学に見られる。

以上の結果より各調査項目とも研修員の評価は非常に高く満足し得るものと判断される。

但し、一部の見学については他のトピックスに比べ研修員により評価がわかる傾向が見られる。

人気の低いトピックス

1. 北スマトラの観光 2名
 以下各1名
2. Quarantine Satation and Slaughter Hause
3. Commercial Farm Visit
4. Livestock Development Programme in Indonesia
5. Visit to Feed Mill at Medan
6. Animal Drug Institution in Indonesia
7. Slaughter Hause Observation at Medan
8. Observation at Livestock Breeding and Forage at Pandang Mangatas

Individual Report (Final Report) 要旨

国名	評価できる事項	改善を要すると思われる事項
<p>Mryasia (C. Nagendram)</p>	<p>Group tour 及び lecture は概して、Comprehensive (包括的で)、host 国の livestock population, livestock service 及び livestock development & disease prevalence の概況を理解するには充分であった。</p> <p>Country report 発表会は、すべての研修員から評価された。全研修員がディスカッションに積極的に参加し、アジア及び大平洋地域における livestock service, livestock development-programme 及び disease prevalence の概況を認識することができた。</p> <p>Poultry credit scheme と feed mill (何れもメダン) の見学はすばらしかった。特に Poultry credit scheme は素晴らしく、(小規模農家(酪農家)の同計画への参加が紹介され) 酪農家は、小規模酪農家に対し、各種の援助を与えることが義務付けられている。このことは村落農民の生活水準を打ち上げるだけでなく、大規模酪農家の暴利を減じる上で意義がある。インドネシア政府のかかる計画は大いに評価に値し、“ambitious project” として注目したい。</p> <p>Medan と Bukittinggi の DIC の見学は興味深かった。両 DIC とも機材も充分整っており、酪農家のニーズに対応すべき各種の veterinary function を果している。</p> <p>Karo と Pangalengan の cattle cooperative project (酪農協同プロジェクト) の見学は、実に興味深いものだった。同プロジェクトは将来性があり、面会した農民は幸せそのものだった。</p> <p>Bogor の Veterinary Research Institute と Ciawi の Livestock Research & Development Centre は勉強になった。</p> <p>インドネシアにおける FMD eradication, 日本における Animal-disease structure & control system, epidemiology の各講義は評価できるし、本セミナーの講義としては適切であった。</p>	<p>Country report 発表にもっと時間を割いて欲しかった。</p>
<p>Thailand</p>	<p>この種の international programme において、各</p>	<p>参考：Department of Livestock Development</p>

国名	評価できる事項	改善を要すると思われる事項
(Sirikarn)	<p>種の見学を折り込むことは、host国の当分野の事情を把握する上で、又、参加者間の人間関係を深める上で有益である。</p> <p>(但し、観光プログラムも必要だ、host国の文化、社会事情の認識を高める上で)</p> <p>講義及びMedan, Bukittinggi, BogorにおけるLabo施設見学を通じての印象では、インドネシアの方がVeterinary Severe及びLivestock Servicesの両分野においてタイより優れていると思われる。</p> <p>本セミナーから得られた知識も多く、特に本国(タイ)の本人所属のAnimal Hospital Sectionで今後Laboを開設する場合参加になる。</p> <p>来年Veterinary Servicesの改善策を検討する予定のところ、診断のためのLaboを開設することを上司(section head)に助言したい。</p> <p>本セミナーは、“Slightly Succussful”であった。</p>	<p>のAnimal Hospital Sectionでは、Dr. Siri Karn以外は英語能力の点でコースに参加させるのは困難かも知れない。</p> <p>本人としては英語受験に自信がなかったが、本セミナー開始4日前になってhost国から受入確認通知をもらった。したがってCountry reportの準備時間が限られ、タイのCountry reportは完全なものではない。</p> <p>参加者にとっては準備もあるので受入通知は少くとも1ヶ月前までに行われるべきである。</p> <p>本セミナーは内容柄アドミに従事している者向きであり、この種のコースが今後実施される場合には、候補者は然るべき関係のある部所から選ばれるべきである。但し、individual programmeが設けられるならばVeterinarianであればだれでも参加可能であると思う。</p>
Philippines	<p>Animal healthに関する知識、機構及び活動(中でもLivestock Servicesに重点あり)について、より広範囲な見通しを持てる機会を得た点で、本セミナーは参加者にとってインセンティブの高いものであった。</p> <p>Country reportの発表会は、参加国のAnimal health関係機関の活動状況を知る上で有益な情報源となった。</p> <p>自分の国には今のところないが、他の国に存在している活動については、調査の上適応できる。</p> <p>Fieldで実践されている施設への見学も参加者の知識を拓ける上で有益だった。</p> <p>インドネシアはその地理的条件の中で、7つのDIC, 5つのQuarantine Satation, 5つのResearch Instituteを設置するなどして家畜疾病に対する防疫体制を効果的に行っている点は評価される。</p> <p>Livestock Industryを支援しているFAO, カナダ, オーストラリア, 日本, 西独などの主要援助機関は言う迄もなく、インドネシア政府としてもっと農業部門に優先度を与えるべきである。</p>	

国名	評価できる事項	改善を要すると思われる事項
	<p>これらのサポートがあって、はじめてAnimal diseaseの早期発見のための診断技術と防疫計画が達成されると思われる。</p>	<p>(参考)</p> <p>インドネシアのAnimal health Organization Structer は、フィリピンと似ている。Diagnostic laboratory, Quarantine & breeding station research institution, cooperatives, credit scheme, animal dispersul programme(家畜分散計画)等の点では、フィリピンと異っており、改善を痛感しているが、財政不足その他高度な機材及び人材不足のため、このギャップは完全に埋められない。</p> <p>実験室関係者及び防疫に携っている人を対象にした研修コースを今後とも開設してほしい。</p> <p>次回以降の研修コースは、各種の診断技術に関する講義及び研修員自身による実習の形態をとることが必要である。</p> <p>本国際研修コースの最後年度に至るまで、final evaluationを行い、すべての帰国研修員を対象に帰国後本研修コース参加の経験がどのように活用されているか調査すべきである。</p>
Sri Lanka	<p>FMD・HS(出血性敗血症)、Rabies new Castle diseaseのような疾病は、参加国に共通のものである。</p> <p>Medan, Bukittinggi のDIC では重要且つ有益な疾病診断業務を遂行しており、非常に感銘した。</p> <p>Slaughter Houseの見学は施設面が行き届いていて関心した。しかし、種々の問題のために、屠殺者(butcher)は未だ完全にはモダンな施設を活かし切っていないようだ。</p> <p>モダンな施設を整ったQuarantine Stationも印象的だった。</p> <p>スリ・ランカにおける畜産開発(特に養鶏)は、大規模農家が卵や鶏肉の市場を独占し、小規模農家をつぶしてしまうという問題をかかえているが、この点見学を通じて参考になった。</p> <p>養鶏場見学を通じ、村落レベルの小農家を救ける</p>	<p>(参考)</p> <p>スリ・ランカは仏教国でもあり、動物を屠殺することに反対があるが、インドネシアのように、養豚産業が盛えることはむづかしい。</p> <p>1つだけインドネシア政府のやり方に賛成できないものがある。それは、政府が多量の家畜を輸入していることである。外貨を消費するだけでなく、これらの貴重な輸入動物は、飼育経験のない村落レベルの農民に手渡され、この結果、折角の生産性の高い家畜も栄養失調、乳腺炎(mestitis)等のために生産性が落ち、酪農産業にダメージを与えることになるからである。</p> <p>私の意見によれば、ローカルな家畜や乳牛を交配させて品種改良を図ることである。F Iは、集中的にエサを与えないでも育つし、病気にもつよい。</p>

国名	評価できる事項	改善を要すると思われる事項
	<p>ために同じような計画をスリ・ランカも採用するよう政府に勧告した。</p> <p>Pangalengan の酪農協同プロジェクト (Dairy Cattle Cooperatives) の見学は興味深い。同プロジェクトのお蔭で、農村の貧民は酪農産業に雇用され、一年を通じて収入が保障された。この制度をスリランカにも導入することにより、3つの主要問題(失業、栄養失調、他)を解決するに役立つと思われる。</p>	
Bangladesh	<p>この種の Advance Training は有益であり、帰国後設備の完備した Laboratory を運営する上で助けになる。</p>	<p>(参考)</p> <p>Dr. Soenardi (Director, DICII, Bucittinnggi) と同センターで実施されている家畜疾病の診断及び防疫の実状に関し、集中的な討論を研修員との間で行った。</p> <p>研修期間は、診断・防疫に関する知識を improve するために1ヶ月位が良い。</p> <p>受入通知は開始時点に間に合うためにも研修コース開始前2週間前までには行われるべきである。</p>
Indonesia	<p>Dr. Sukobagyo の講義「FMD Eradication Programme」は今回のコースの中で唯一 fit したものだ。評価される。</p> <p>「Epidemiology」の講義 (Dr. Soehardjo) は、Data analysis と Disease investigation をカバーすべきであったが、Dr. Daniel があとで「Epidemiological Prespetiue」と題し、上手に講義を行った。同氏のテーマは適切であり、コースの初めに行われるべし。</p> <p>吉村氏の講義「Animal Disease Situation and Control in Japan」は、比較研究という意味では有益であると思う。</p>	<p>Country report は研修員が時間的余裕がなかったこともあり、余り十分な準備がなされなかった。</p> <p>「Livestoch Development Programe in Indonesia」の講義では、初日に行われるべきである。(2/12に行われた)</p> <p>養豚・養鶏場の見学は本セミナーの Subject としては適切ではない。むしろ伝統的な backyard farm を見せることにより、インドネシアにおける disease control (防疫) 上のハンディキャップの1つを紹介できたと思われる。</p> <p>Poultry credrt scheme, Dairy Cooperative の見学も直接的には本セミナーのトピックには関係がないと思う。</p>

II-4 次年度コース(第2回目)の概要の検討

次年度コース概要(案)については当初計画に従い、今年度コース(第1回目)参加研修員のコメント(Group Report)を考慮しつつ策定された。

右コース概要(案)の検討にあたっては上記研修員のコメントの他事前調査及び実施協議を通じ感じとられた“留意点”を念頭におきつつ「イ」側と意見交換を行い、その結果は次年度コース概要案(Memo Concerning the Organization of the Second Year International Course on Diagnosis of Animal Diseases and Their Control Programmo in 1986)として英文メモに集約された。

云うまでもなくこのコース概要案は仮案であり「イ」側にコミットするものではなく、帰国後予算等の諸条件を検討の上結果を「イ」側へ通報することとした。次年度コースの概要案の要旨は次のとおりである。

(1) タイトル

家畜疾病診断及び防疫計画に関する国際研修コース

(2) 目的

本研修の目的は次のとおり

(ア) アジア・太平洋地域における獣医士の家畜疾病診断にかかる技術向上と同地域での防疫計画を促進すること。

(イ) 上記技術の改良及び普及活動を行い、さらに同地域における統括的な家畜衛生防疫計画の強化を図ること。

(3) 研修期間

研修期間は1986年1月26日から同年3月4日までとする。

右研修期間で、3週間の個別コースに引続き2週間の集団コースを実施する。

(4) 研修日程

別紙英文メモのANNEX(I)のとおり。なお、「イ」側としては、見学先を東部ジャワまで拡げたいとしているが、これは、東部ジャワの家畜飼育頭数(Livestock Population)が270万頭と最も多く、スラバヤのVeterinary Biologies CentreはじめメランのBタイプラボやA-1 Centre等インドネシアでも代表的な施設があるためであるとしている。(なお、本件については旅費もかさむので予算が許せば対応したい旨答えおいた。)

(5) 研修形態

個別コース：個別コースは実験室レベルの診断技術を中心に実習、講義から構成される。

集団コース：集団コースはセミナー形式で実施され、続いて中央及び地域関係機関並びに施設の見学を行う。

(6) 割当国

以下の国を割当国とする。

ブルネイ、マレーシア、フィリピン、タイ、ビルマ、バングラデシュ、スリ・ランカ、ネパール、ブータン、PNG、フィジー、西サモア、ソロモン

(7) 定員

個別コース参加者は割当国から5名、「イ」側から2名を限度として受入れる。集団コース参加者は割当国から15名、「イ」側から5名を限度とする。ただし、集団コースの定員には個別コース参加者数を含むものとする。

(8) 応募人数

割当国は個別コースに1名、集団コースに2名をそれぞれ候補者として優先順位を付して推せんする。

(9) カントリーレポート

研修に参加する各国は集団コースにおける討議に用いるカントリーレポート（但し、1ヶ国1レポート）を提出する。

(10) 選考基準

応募希望者は次の事項を満す者であること。

(イ) 初年度コースと同様な要請手順に従って当該国から推薦されること。

(ロ) 大学獣医学部卒業或いは、それに準ずる学歴を有すること。

(ハ) 英語の読み書きに十分堪能であること。

(ニ) 当該国の国民であること。

(ホ) コース参加に支障のないだけの身体的及び精神的に健康であること。

（個別コース参加希望の場合）

(イ) 実験室レベルの診断技術の知識と経験を有するか、或いは家畜疾病に関する家畜衛生業務の経験を有する獣医官であること。

（集団コースのみに参加希望の場合）

(ロ) 家畜衛生業務について経験と知識を有する獣医官であること。

(11) 研修機関

本コースは主にメダンD I Cにて行われる。

(12) 講師

(イ) インドネシア政府は集団・個別両コースの講師として畜産総局或いは、他の研究機関等に勤務する適格者を手配する。

畜産総局以外から次の外部講師が予定される。

Pathology: Dr. Soesanto (Gaja Mada 大学), Dr. Ginting (Veterinary Research Institute, Bogor)

Bacteriology : Dr. Arab Bangun (GajaMada 大学, Faculty of Veterinary Medicine)

Epidemiology : Dr. Setiwan Budiharto (Gaja Mada 大学)

Virology : Dr. Soehardjo (ボゴール農大 (I.P.B)), Dr. Poernomo (Veterinary Research Institute, Bogor)

Parasitology : Dr. Singgih (ボゴール農大) I.P.B, Dr. Soetiono (Veterinary Research Institute, Bogor)

なお、「イ」側講師陣については、事前調査団報告書 (p 16 - 17) に指摘の通り、ウィルス、寄生虫学についてはメダン D I C 限りでは、経験が浅く、第三国研修に耐え得るか否か不安が残るところ、敢えて外部講師の登用につき言及したところ、Dr. Adat (メダン D I C 所長) は D I C スタッフで対応可能の旨言明した。

しかし、当調査団としては依然として不安が残るので Dr. Tekon 局長に確認したところ、以上の外部講師リストを提出するに到ったものである。

この他、必要であれば、日本側と協議の上合意が得られれば、技術援助プロジェクト (ジョクジャカルタ D I C, ブキティンギ D I C 或いは、セルボン・Veterinary Assay Laboratory) に勤務する外国人専門家をアド・ホックベースで配置する。

(ロ) 日本政府はインドネシア政府の要請にもとずき、個別コースに 1 名 (ビールス学) 及び集団コースに 1 名 (第 1 回コース吉村氏と同分野の講義)、計 2 名の講師の派遣を考慮する。

(3) 機械供与

日本政府は、昨年既に、「イ」政府より要請のあった機材リストにもとずき、コース実施に必要な機材を供与する。

(4) コース・スケジュール

別紙英文メモの ANNEX 参照。

2) 次年度コースに関する「イ」側との協議内容

次回コース (第 2 回目) から始まる研修テーマについては、先に派遣された「インドネシア第三国研修事前調査団」及び「同研修実施協議チーム」と「イ」側との間で協議され、その結果、初年度セミナーに参加した研修員の要望も考慮し決定することとなっていた。

このうち疾病については域内 (アジア・太平洋地域) に共通に見られる家畜疾病の中から毎年一種類を選ぶこととし、当面その候補として次の各疾病を検討の対象として取り上げることにした。

- (a) ニューキャッスル病を中心とする家禽疾病
- (b) 出血性敗血症
- (c) 牛 (水牛) のウィルス性疾病

(d) 狂犬病

(e) 住血原虫を含む寄生虫

上記経緯のとおり、参加国の共通する重要疾病の中から次年度コースで取り上げる疾病名を決定することが今回コースの目的の1つであり、この点に関し参加研修員による諸討議（彼等の討議結果は Group Report に集約）がなされ、これをベースにさらに本調査団と畜産総局との間で協議を重ねた。

この結果、次年度コースで取り上げる研修テーマは疾病を1種類に限定せず、複数の家畜の重要疾病を取り上げることとした。

その理由は、家畜疾病診断の研修においては実際にフィールドに出て野外例における病畜又はへい死畜等の検査方法等を修得することが極めて重要となるが、もし1種類の、例えば牛の疾病に限定した場合研修中にフィールドで牛の疾病例だけを探し見つけることは極めて困難であり従って、研修テーマとして1種類の疾病に限定することは現実的でないというものである。

次に技術レベルについては、研修員のリコメンデーション（基本的診断技術及び高度診断技術）を原則的に取り入れることとした。このうち、高度診断技術については、S A T（血清凝集試験）、C F T（補体結合反応）、I S O L A T I O N（分離）、I d e n t i f i c a t i o n（同定）、N T（中和テスト）等がプログラムの中に組み入れられることになった。尚、Elisaを用いた血清反応に関する技術指導の導入につきDr. Adatより希望が表明されたが、JICA側は、「イ」側に講師たる人材が見当たらないこと、又割当国においてもElisaは余りポピュラーでないことを理由に難色を示したところ、Dr. Adatも不承ながらもこれを受け入れた。

最後に、次年度コースの具体的診断技術については研修員からは、9種のリコメンデーションがあったが、この中から病理学的検査、寄生虫学的検査、細菌学的検査、ウイルス学的検査の4種の疾病診断技術を選び例えば、野外例における病畜或いはへい死畜等の検査方法並びに剖検方法、検体採取方法、検体保存輸送方法といった基本的技術から次に実験室内における各分野の検査方法といった診断技術を網羅することとし、具体的には次に示すような各家畜別の主要疾病を取り上げることとなった。

1. 鶏病

（ニューカッスル病）

— 鶏中及び組織培養によるウィルス
分離

— H A 及び H I によるウィルスの同定

— 病理学的検査

1. Poultry diseases

（New Castle disease）

— Isolation and identification of
by: embryonated egg and tissue
Culture

— Serologic by HA and HI test

— Pathologic by macro and micro
pathologia, also FAT

2. 牛及び水牛の疾病

2. Cattle and buffalo disease

- | | |
|---|--|
| <p>(出血性敗血症)</p> <p>— 菌の分離及び同定</p>
<p>— 分離菌の血清型別</p> <p>— 病理学的検査</p> | <p>(Haemorrhagic Septicemia)</p> <p>— Isolation and identification of bacteria</p> <p>— Biologic test</p> <p>— Sero typing</p> <p>— Pathologic</p> |
| <p>3. 豚の疾病</p> <p>(豚丹毒)</p> <p>— 菌の分離及び同定</p>
<p>— 病理学検査</p> | <p>3. Swine diseases</p> <p>(Erysipelas)</p> <p>— Isolation and identification of bacteria</p> <p>— Biologic test</p> <p>— Pathologic</p> |
| <p>4. 犬の疾病</p> <p>(狂犬病)</p> <p>— F A による診断</p> <p>— 病理学検査</p> | <p>4. Dog diseases</p> <p>(Rabies)</p> <p>— F A T</p> <p>— Pathologic</p> |
| <p>5. 家畜一般</p> <p>(寄生虫病 (含, 住血原虫症))</p> <p>— 鏡検による原虫同定</p> <p>— 病理学検査</p> | <p>5. Full animal</p> <p>(Parasitic diseases, Blood Parasiter)</p> <p>— Identification of organisms</p> <p>— Pathologic</p> |

(2) 機材供与

畜産総局に確認したところ、昨年11月既に、正式要請のあった機材リストの通りで差し支えないが特に、パーソナルコンピューターについて強く希望するとの回答があった。右要請リストは次のとおり。

DRAFT LIST OF REQUEST 6 EQUIPMENT FOR TCDC ANIMAL DISEASE DIAGNOSIS
AND THEIR CONTROL PROGRAMME, MEDAN DIC, (SECOND PHASE)

PATHOLOGY SECTION

1. Conjugate for N.D. - FA for 100 Samples
2. Conjugate for Rabies - FA as above
3. Conjugate for Marek - FA as above
4. Conjugate for Hog Cholera - FA as above
5. Conjugate for Toxoplasmosis - FA as above
6. Conjugate for Avian Encephalomyelitis ; Infectious Bronchitis, ILT;
EDS '76 as above
7. Rabies Vaccine for human 30 doses

EQUIPMENT

1. Criostat Machine 1 set
2. Fluorecent Antibody Microscope 1 set
3. Photomicroscopis for FAT 1 set
4. Disposable syringe for mice inoculation (1 ml) 300 pieces and needle
300 pieces
5. (Knife microtome) Disposable Knife of Microtome 100 pieces and
this holder 2 pieces
6. Photomicroscop. graphic system (Olympus Model BH2) 1 set
7. Slide glass for FAT 20 box (1000)
8. Cover glass (size; 24 X 36 mm pc) 2000 pieces
9. FAT Lamp
 - a) Super presur mercury lamp 5 pieces
 - b) Pre centered tungsten filament bulb 5 pieces
10. Electric Balance with special table 1 set.

PARASITOLOGY SECTION

1. Leucocytozoonosis

- Agar Gel Precipitation apparatus set 2 sets
 Antigen, antibody, agar noble (Non commercial) for 100 Samples
 100 g X 2
- Light Trap Lamp 2 sets

2. Coccidiosis

- O.P.G. Counter 10 pieces
- Magnetic stirrer 3 sets
- Burner 5 sets

3. Toxoplasmosis

- Toxoplasma latex agglutination reagent for 100 samples
- Tomy microtiter System, 5 sets
- Excel tripipette (25 - III) 1 pieces and Tip (1000 pieces)
- (Microfilluter)
- Blunt needle and syringe for inoculation toxoplasma oocyst 100 pieces

4. Liver fluke disease

- Fasciola egg detection rotator KT-1, Taiyo Kagaku industri Co., Ltd.
 Tokyo 1 set
- The glass (yarn) with special size 520 - 710 um in diameter 2 Nos.
 base

BACTERIOLOGY SECTION

1. Pasteurella multocida serotyping (Non Commercial)
2. Antigen for Brucella : SAT; CFT for 100 Samples
Adding complement and Heanolysm
3. Antigen RAT pullorum for 100 samples
4. Stereo Microscop 1 set
5. CMT Reagent for 500 Samples
6. Low temprature incubator electric 1 set
7. Membrane Filter (0.22 and 0,45 mm) 50 pcs. X 4

GENERAL

1. Mini computer IBM 1 set
2. Typewriter Electric IBM. 2 sets
3. Slide of diseases
4. Slide for souvenir
5. Projector 1 set

VIROLOGY SECTION

1. Antigen for HI : N.D; (EDS '76) for 100 samples
2. Standard Virus : N.D, EDS '76. Marek, IB. IBD, Orf (pustular stomatitis), AE.
each 5 pieces.
3. Equipment :
(Micro plate (U type), Diluter set, Droper (0.025 ml), 0.05 ml)
nobuto filter paper 1000 pieces
4. Chemicalia :
New born calf serum, fetal calf serum, bovine albumine, Hank's ;
100 X 10 = 1000 ml 100 X 10 = 1000 ml 25 g X 10 100 g X 10
Trypsine, Phospate buffer (PH 6.8-7.2), Eagle MEM, Fungizone Titer 5 mg,
25 g X 2 500 g 100 g X 10 10 pieces X 10
Penicilline, Streptomisine, Kanamycine
10 pieces X 10 10 pcs X 10 10 pcs X 10

(3) カウンターパート研修員の受入れ

候補者は Dr. Sunartoyo (ブキティンギ D I C 所属で今年度コースに参加) 及び他に 1 名 (候補者は未定) を 9 月以前に受入れて欲しい旨要請があった。

(4) ローカルコスト (「イ」側研修実施経費負担)

2 月 2 0 日午前中に行われた技調委との協議の席上、調査団より次年度コースの研修実施経費「イ」側負担分の TCDC Pooling Fund からの支出について確認したところ 1984/85 年度分は、畜産総局が Bapponas を通じて Rs 1,000 万を予算にしたが、1985/86 年度分 (第 2 回 2 2) は、未だ畜産総局よりコースファンドプロポーザルがなされて無いが (農業省より 7 件の TCDC Fund 使用申請が出ているが本件コース分は含まれていない由)、もし今からでもプロポーザルがあれば支出について考慮するとの回答があった。

2 月 2 5 日畜産総局との協議の折本件につき技調委の意向を伝えるとともに、コースファンドプロポーザルがなされていない理由をただしたところ、申請を失念していたが早速技調委に申請したいとの説明があった。

(5) 本調査団より、技調委の Mr. Husen (TCDC 担当課長) に対し、今回の評価調査の結果並びに次回コース概要を英文訳して提出する所存である旨伝えたところ、先方はこれを多いに評価した。(事実、右約束は実行された)

II-5 本年度コースの実績・現状

1) 本コース設置の背景及び今回コースの目的

(1) 背景

(イ) 家畜の伝染性疾病は、家畜の生命及び生産性を脅かすために本病の発生蔓延は家畜資源の損失を招き、畜産業に多大な被害を及ぼすこととなる。

このため畜産の安定的な発展のためには家畜の伝染性疾病の予防・迅速かつ、的確な診断、蔓延の防止等の措置が極めて重要な要素である。

(ロ) 関係各国の家畜衛生当局では制度、組織、規模等の差はあれその体制を整えて家畜防疫にあたっている。

特に、診断部門はその後に続く適切な防疫措置の前提となるところから極めて重要視されるが社会経済、人材、施設等の事情から開発途上国におけるその技術水準は必ずしも一定しておらず、且つ、その制度は高いものではない。

(ハ) 特に、アジア・太平洋地域の開発途上国での家畜の伝染病疾病の発生状況は共通的なものが多く、これらの地域の家畜衛生関係者が疾病診断技術の平準化のために学び家畜防疫に寄与することは意義深いことである。

(2) 目的

(イ) アジア・大平洋地域における獣医士の家畜疾病診断にかかる技術向上と同地域での防疫計画を促進すること。

(ロ) 上記技術の改良及び普及活動を行い、さらに同地域における統括的な家畜衛生防疫計画の強化を図ること。

2) 対象とする研修員の資格(今回コース)

- (1) インドネシア国政府の応募要領にもとずき、当該政府より推薦された者。
- (2) 国の家畜衛生業務に携わる上級獣医官であること。
- (3) 大学卒業又はそれと同等の学歴を有する者。
- (4) 十分なる英語会話力及び読解力を有する者。
- (5) 研修に参加するに足る精神的、且つ肉体的に健康である者。

3) 研修形態

本年度においては参加国の家畜衛生の現状、診断防疫体制等についてのカントリーレポートの発表、特別講義、メダン、パダン、ジャカルタ周辺の関連施設・機関の視察並びに、次年度以降の技術研修計画の検討を行った。次年度以降の技術研修計画の検討結果については Group Final Report にまとめられた。

4) 研修日程

本年度コース研修日程は次のとおり。

<u>FEBRUARY</u> <u>SUNDAY</u>	3	PARTICIPANT'S ARRIVAL AT MEDAN
<u>FEBRUARY</u> <u>MONDAY</u>	4	09.00 A.M - 10.00 A.M : OPENING CEREMONY 10.00 A.M - 10.30 A.M : COFFEE BREAK 10.30 A.M - 12.00 P.M : INTRODUCTION & ORIENTATION OF THE COURSE 12.00 P.M - 13.00 P.M : TOURISM ON NORTH SUMATERA 13.00 P.M - 14.00 P.M : LUNCH 14.00 P.M - 16.00 P.M : OBSERVATION AT THE MEDAN SLAUGHTERHOUSE 19.00 P.M - 22.00 P.M : WELCOME PARTY
<u>FEBRUARY</u> <u>TUESDAY</u>	5	08.30 A.M - 09.30 A.M : INTRODUCTION TO DIC MEDAN 09.30 A.M - 10.00 A.M : COFFEE BREAK 10.00 A.M - 10.30 A.M : COUNTRY REPORT (MALAYSIA) 10.30 A.M - 11.30 A.M : COUNTRY REPORT (PHILIPPINES) 11.30 A.M - 12.30 A.M : COUNTRY REPORT (SRI LANKA) 12.30 P.M - 13.00 P.M : COUNTRY REPORT (WEST SAMOA) 13.00 P.M - 14.00 P.M : LUNCH 14.00 P.M - 14.30 P.M : COUNTRY REPORT (THAILAND) 14.30 P.M - 17.00 P.M : OBSERVATION AT THE BELAWAN ANIMAL QUARANTINE STATION

<u>FEBRUARY</u> <u>WEDNESDAY</u>	6	08.30 A.M - 09.15 A.M : COUNTRY REPORT (INDONESIA).
		09.15 A.M - 13.00 P.M : FIELD OBSERVATION OF DIC ACTIVE SERVICE AT LUBUK PAKAM
		13.00 P.M - 14.00 P.M : LUNCH
		14.00 P.M - 17.00 P.M : OBSERVATION AT THE PIGGERY AND POULTRY BREEDING FARM AT MEDAN MUNICIPALITY.
<u>FEBRUARY</u> <u>THURSDAY</u>	7	08.30 A.M - 09.30 A.M : DR.SUKOBAGYO : FMD ERADI- CATION PROGRAMME IN INDONESIA
		09.30 A.M - 10.30 A.M : DR.SHIEO YOSHIMURA: ANIMAL DISEASE SITUATION AND CONTROL SYSTEM IN JAPAN.
		10.30 A.M - 11.00 A.M : COFFEE BREAK
		11.00 A.M - 12.00 NOON: DR.SUKOBAGYO : LIVESTOCK CREDIT SCHEME FOR SMALL FARMERS
		12.00 NOON- 13.00 P.M : LUNCH
		13.00 P.M - 16.00 P.M : VISIT POULTRY CREDIT SCHEME AND FEED MILL AT MEDAN
		16.00 P.M - : LEAVING FOR PRAPAT.
<u>FEBRUARY</u> <u>FRIDAY</u>	8	08.00 A.M - 13.00 A.M : SIGHT SEEING AT TOBA LAKE
		13.00 P.M - 14.00 P.M : LUNCH
		16.00 P.M - 17.00 P.M : VISIT DAIRY CATTLE COOPE- RATIVE PROJECT AT KARO
<u>FEBRUARY</u> <u>SATURDAY</u>	9	08.00 A.M - 12.00 NOON: VISIT TO NORTH SUMATERA MUSEUM AND SIGHT SEEING
<u>FEBRUARY</u> <u>SUNDAY</u>	10	07.00 A.M. : LEAVING FOR PADANG, WEST SUMATERA PROVINCE OVERNIGHT AT DYMENS HOTEL BUKITTINGGI.
		10.00 A.M - 11.30 A.M : OBSERVATION AT THE BUKITTINGGI DIC
		11.30 A.M - 12.45 P.M : LUNCH
		13.45 P.M - 14.45 P.M : OBSERVATION AT LIVESTOCK BREEDING AND FORAGE CENTRE AT PADANG MENGATAS
		14.45 P.M - : RETURN TO BUKITTINGGI
<u>FEBRUARY</u> <u>MONDAY</u>	11	08.00 A.M - : LEAVING FOR PADANG
		11.00 A.M - 12.30 P.M : OBSERVATION AT MANINJAU LAKE
		12.30 P.M - 13.00 P.M : LUNCH

14.00 : LEAVING FOR JAKARTA OVERNIGHT
AT MENTENG II HOTEL

FEBRUARY 12 08.00 A.M - 09.30 A.M : VISITING DGLS LECTURE ON :
TUESDAY LIVESTOCK DEV. PROGRAMME IN
INDONESIA BY DIRECTOR OF
LIVESTOCK PLANNING.

09.30 A.M : LEAVING FOR BOGOR

10.30 A.M - 12.00 NOON: OBSERVATION AT BOGOR
VETERINARY RESEARCH INSTITUTE

12.00 NOON- 13.00 P.M: LUNCH

14.00 P.M - 15.00 P.M : OBSERVATION AT LIVESTOCK
RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTRE
AT CIAWI

15.00 P.M : LEAVING FOR BANDUNG OVERNIGHT
AT PRIANGER HOTEL BANDUNG

FEBRUARY 13 08.00 A.M - 09.00 A.M : VISIT THE WEST JAVA PROVINCIAL
WEDNESDAY LIVESTOCK SERVICES.

09.00 A.M : LEAVING FOR PENGALENGAN.

10.30 A.M - 11.30 A.M : VISIT DAIRY CATTLE COOPERATIVES
PENGALENGAN.

14.00 P.M : RETURN TO JAKARTA OVERNIGHT AT
MENTENG II HOTEL.

FEBRUARY 14 PREPARATION FOR FINAL REPORT
THURSDAY

10.00 A.M - 12.00 A.M @ DR.UNRUH, DIAGNOSTIC
LABORATORIES VERSUS DISEASE
INVESTIGATION CENTERS :
ARE THERE DIFFERENCES ?
AN EPIDEMIOLOGICAL
PERSPECTIVE

12.00 NOON- 13.00 P.M : LUNCH

FEBRUARY 15 09.00 A.M - 10.30 A.M : PRESENTATION OF FINAL
FRIDAY REPORT (I).

10.30 A.M - 11.00 A.M : COFFEE BREAK

11.00 A.M - 13.00 P.M : PRESENTATION OF FINAL
REPORT (II).

13.00 NOON- 14.00 P.M : LUNCH

14.00 P.M - 17.00 P.M : VISIT VET. ASSAY LAB.

FEBRUARY 16 09.00 A.M - 10.30 A.M : PRESENTION OF FINAL
SATURDAY REPORT (III)

10.30 A.M - 11.00 A.M : COFFEE BREAK

11.00 A.M - 12.00 NOON: EVALUATION BY THE JAPANESE
EVALUATION TEAM.

12.00 NOON- 13.00 P.M : LUNCH

13.00 P.M - 16.00 P.M : OBSERVATION AT THE CAKUNG
SLAUGHTERHOUSE

FEBRUARY 17 F R E E
SUNDAY

FEBRUARY 18 09.00 A.M - 13.00 P.M : OBSERVATION AT BEAUTIFUL
MONDAY INDONESIA MINIATURE
PARK (TMII).

19.00 P.M - 22.00 P.M : CLOSING CEREMONY

FEBRUARY 19 PARTICIPANT'S DEPARTURE TO THEIR
TUESDAY RESPECTIVE COUNTRY.

5) 講 師

本年度コースの講師陣は次のとおり。

No.	Name of Lecturer	Occupation	Subject
1.	Drs.H.P.Simbolon	Chief, Sub Direc- torate of Tourism North Sumatera	Tourism & Culture in North Sumatera Province
2.	Dr.Sukobagyo Poedjo- martono	Chief, Sub Direc- torate of Animal Disease Surveillan- ce, Directorate of Animal Health, DGLS, Dept. of Agriculture, Jakar- ta.	Foot and Mouth Disease Eradication Programme in Indonesia. Introduction to the course
3.	Dr.Adat Perangin- angin	Director, Disease Investigation Centre Region I Medan	Introduction of the DIC Medan and Its activities
4.	Ir. Erwin Soetirto	Director, Lives- tock Programming, DGLS, Dept. of Agriculture, Ja- karta.	Livestock Development Programme in Indonesia
5.	Dr. Daniel Unruh	, CIDA expert assigned to the DIC Region IV Yogyakarta.	Diagnostic Laboratories versus Disease Investi- gation Centers.
6.	Dr. Yoshimura	JICA Expert	Animal Diseases Situa- tion in Japan.

6) カントリーレポート

研修員は研修開始前に以下の点についてとりまとめたカントリーレポート提出し、研修時に発表した。

- (1) Animal Disease Situation
- (2) Animal Health Organization Sturcture
- (3) Diagnostic Services
- (4) Problem in Animal Health Services

7) 教材

(1) テキスト

- (イ) F.M.D. Eradication Programme in Indonesia
- (ロ) Animal Diseases Situation and Control System in Japan
- (ハ) Livestock Development Programme in Indonesia

(2) スライド

「Turism on North Sumatra」及び「Introduction to DIC Medan」の両講義にスライドが使用された。

8) エバリュエーション

研修終了時に「Indivisual Report」及び「Questionnaire for Final Course Evaluation」の提出を求めた。Indivisual Report は特にフォームは無いが JICA のファイナルレポートに当り、研修内容等研修全般について研修員の意見・感想を求めたものである。「Questionnaire for Final Course Evaluation」は JICA のエバリュエーションシートに当るもので調査項目がさらに多岐にわたっており、本調査団が用意したクwestionnaire と内容的にはほぼ同じである。

9) 研修実施機関

インドネシア共和国農業省畜産総局

10) 研修用施設

主たる研修場所はメダン家畜衛生センターであったが Indivisual Report の発表等研修の一部はジャカルタの畜産総局会議室において実施された。

メダン DIC は我が国の無償資金協力により 1978 年にタンジュンカラ DIC とともに設立されたものであり、同センターへの技術協力は 1977 年 7 月から 1984 年 7 月まで R/D に従って実施された。「イ」国としては全国の畜産主要地域に 7 ケ所の DIC を設置しこれらのネットワークを中心にして地域における家畜衛生サービスの改善をねらうことを企画したもので、メダン DIC はこのうちの 1 ケ所としてこの地域の家畜衛生改善に寄与している。

11) 宿泊施設

ジャカルター「Hotel Mentong II」

所在地：105, Jalan Cikini Raya

TEL：325543

料金は1泊 27,000 RP (値引料金)

メダナー「Dharma Deli」

12) 福利厚生施設

(1) 病院

プルタミナ総合病院

所在地：Jalan Kyai Maja 43, Jakarta

Rumah Sakit Saint Carlos

所在地：Jalan Salemba Raya 41, Jakarta

(2) 保険会社

P. T. Asransi Insinpo Taisho

所在地：Wisma Nusantara, No. 59 Jalan M.H. Thamrin, Jakarta

13) 研修員応募・受入手続

(1) GIの作成送付

GIは畜産総局が作成印刷し9月13日技調委から割当国に所在するインドネシア大使館宛送付の手続きがとられた。

GIの内容は次のとおり。

(イ) Introduction

(ロ) Purpose

(ハ) Duration

(ニ) Language

(ホ) Institution

(ヘ) Qualification of Application

(ト) Procedure of Application

(チ) Tentative Programme

(リ) Certificate

(ル) Financial and Administrative Arrangements

— Allowance —

— Arrangements by the Participants Government —

— Arrangements by the Government of the Republic of Indonesia —

— Accomodation —

(1) Other Arrangements

— Passport and Visa —

— Health —

— Currency Regulation —

— Customs —

— Clothing —

— Arrival Arrangements —

— Further Information —

(2) GIの送付ルート

畜産総局→技調委→外務省→割当国に所在するインドネシア大使館→割当国政府の窓口機関

(3) 定員，割当国

定員は割当国10名，インドネシア5名，計15名

割当国は次のとおり。

ブルネイ，マレーシア，フィリピン，タイ，ビルマ，バングラデシュ，スリ・ランカ，ネパール，ブータン，PNG，フィジー，西サモア，ソロモン，バヌアツ

(4) 応募状況・受入回答

応募者数は6ヶ国10名で応募状況は良いとは云えないが、「イ」側の説明によれば今回は第1回目でもあり止むを得ないと考えるとの由である。

選考は1月19日開催されたOrganizing Committeeにおいてなされ，その結果応募者全員に受入回答がなされ全員が研修に参加した。

参加研修員は次のとおり。

No.	Name	Country	Occupation/Address
1.	Dr. C. Nagendram	Malaysia	Assistant Veterinary Officer, State Veterinary, Department Petaling Jaya, Selangor.
2.	Dr. Shahirudin bin Shamsudin	Malaysia	Assistant Veterinary Officer, Veterinary Diagnostic Laboratory, Petaling Jaya, Selangor.
3.	Dr. Picroh Arjsongkoon	Thailand	Assistant Professor in Pathology, Veterinary College, University of Bangkok, Bangkok.
4.	Dr. Sirikarn Hoontrakul	Thailand	Veterinary Officer, Department of Livestock Development, Bangkok.
5.	Dr. Sylvanna Rivadelo Sison	Philippines	Veterinary Diagnostician National Disease Diagnostic Laboratory, Bureau of Animal Industry, MAF, Quezon City.
6.	Dr. Francisca A. Ching	Philippines	Associate Professor & Department Chairperson, Central Luzon State University, Munoz, Nueva Ecija.
7.	Dr. M.S. Mapaguneratne	Sri Lanka	Assistant Director Animal Production and Health, Paradeniya.
8.	Dr. Michael Otto Hansell	Western Samoa	Veterinary Officer, Animal Health and Production Services, Department of Agriculture, Forestry and Fisheries, Apia.
9.	Dr. Md. Azhar Ali miah	Bangladesh	Senior Scientific Officer field Disease Investigation Laboratory Manikganj Bangladesh
10.	Dr. Md. Kalimullah miah	Bangladesh	Senior Scientific Officer Field Diseases Investigation Laboratory, Feni Bangladesh.
11.	Dr. Budi Triakoso	Indonesia	Head, Animal Disease Investigation Centre Region IV, Yogyakarta.
12.	Dr. H.M. Gaus Siregar	Indonesia	Head, Animal Diseases Investigation Centre Region VII, Maros.
13.	Dr. Soenardi	Indonesia	Head, Animal Diseases Investigation Centre Region II, Bukittinggi.
14.	Dr. Tagor Harahap	Indonesia	Head, Animal Quarantine Services Region II, Jakarta.
15.	Dr. Warman A.R	Indonesia	Head, Animal Health Bureau, Livestock Service of West Java Province, Bandung.

(5) 航空券の送付・宿舎の確保

航空券の送付はジャカルタ事務所が旅行代理店を通じPTAで研修員宛送付された。

旅行代理店：P. T. Natrubu (Jalan Agus Salim, No. 29 A, Jakarta)

宿舎確保は畜産総局，家畜衛生局が行った。

14) 日本側に対する協力要請

(1) 短期専門家派遣

2名要請，1名派遣

当初2名の専門家派遣を予定していたが1名については都合により派遣不可能となり，吉村史朗氏（農水省，畜産局・衛生課）のみの派遣となった。

(2) カウンターパートの受入

Mr. Ronny Mudigdo - Chief, Bacteriology Division, DIC Medan

Mr. Sofyan Sudardjat - Head, Sub-Directorate of Animal Disease Prevention and Eradication

の両名を昭和59年12月5日より同年12月28日まで受入れた。

研修員は本コースのOrganizing Committeeのメンバーとして研修の実施・運営に重要な役割を果し，日本での研修は非常に役立ったとの由である。

(3) 研修実施経費

(i) 見積書の提出・本部よりの示達

畜産総局長よりジャカルタ事務所を通じ昭和59年11月10日研修実施経費見積書が提出され同年12月6日本部よりジャカルタ事務所に示達された。

示達額等は次のとおり。

インドネシア第三国研修（家畜疾病診断防疫計画）

	R/D	59 申請額	承認額	
I 受入諸費	US\$ 35,970	US\$ 35,616.49	US\$ 35,616.49	
航空賃	20,970	22,664	22,664	マレーシア1名追加
滞在費	14,700	12,750	12,750	@ 50 × 15名 × 17日 (R/Dでは@ 60)
保険料	300	202.49	202.49	
II 研修諸費	11,720	11,761.68	9,761.68	
講師謝金	200	50	50	50 × session × 1 = 50
備入費	800	400	400	
研修旅費	3,800	4,890	4,890	航空賃 3,740, バス乗上費 1,150
会議費	920	920	920	
教材費	3,000	2,130	2,130	
交通費	1,000	0	0	
雑費	2,000	2,000	0	事務所保留分で充当
事務所保留分		1,371.68	1,371.68	メダンへの出張旅費等 805.66, 会議費 566.02
計	47,960	47,378.17	45,378.17	

Rate ¥ 245.95 / US\$ (11月レート)
¥ 11,161 千円

(e) 支払い

航空賃：昭和60年2月8日研修員の来「イ」確認後ジャカルタ事務所より旅行代理店に支払われた。

滞在費：昭和60年2月8日（バングラデシュについては2月8日）ジャカルタ事務所より研修員に支払われた。

研修諸費：「イ」側よりの銀行口座の通知（1月25日）を待って1月29日畜産総局に支払われた。

(f) 精算処理

精算処理の方法は証拠書類添付の上ジャカルタ事務所に精算報告せしめる予定であり、残額ある場合は返納せしめる。

証拠書類はジャカルタ事務所が保管する。

報告担当者：

Dr. Soekobagyo

—Chairman, Steering Committee

Mr. Paring Asmara

—Secretary, Organizing Committee

Dr. Rony Mudigdo

—Treasurer, Organizing Committee

インドネシアの会計年度は日本と同じであり精算報告についてはインドネシアの会計制度上特に問題はない。

15) 修了証書

研修を終了した研修員には農業省・畜産総局長名の終了証書が授与される。

REPUBLIC OF INDONESIA
DEPARTMENT OF AGRICULTURE
DIRECTORATE GENERAL OF LIVESTOCK SERVICES

THE INTERNATIONAL COURSE ON DIAGNOSIS OF ANIMAL
DISEASES AND THEIR CONTROL PROGRAMME

THIS IS TO CERTIFY THAT :

OF

Has successfully participated in an International Course on Diagnosis of Animal Diseases and Their Control Programme held in MEDAN, North Sumatera Province, Indonesia from 4th February to 18th February 1985

Jakarta, 18th February 1985

THE DIRECTOR GENERAL OF LIVESTOCK SERVICES
DEPARTMENT OF AGRICULTURE
OF THE REPUBLIC OF INDONESIA

(Dr. DAMAN DANUWIDJAJA)
Nip. 480023087

(Ⅲ) 第三国研修「地震工学」コースの管理調査結果

Ⅲ-1 コースの概要

地震工学コースは1981年インドネシア国・バンドン市に所在する公共事業省・住宅都市計画総局建築研究所（現在は公共事業省・研究開発庁居住研究所）を実施機関として、国際協力事業団の第三国研修の一環として又、インドネシア国のTCDC（Technical Cooperation among Developing Countries）プログラムの1つとして開始され、今年度は第4回目を迎えた。

今年度コース（第4回）は「イ」側の要請を受け、コースの内容を地震工学中心から火山学者、地震学者、地質学者を対象とした地震学に変更し、地震学関連の科目を大巾に増した。

本コースは6週間にわたって実施され、講義、演習、研修旅行、カントリーレポート発表、ディスカッション等で構成されている。第1回から第4回までの参加研修員は割当国から40名、インドネシアから51名となっている。

Ⅲ-2 地震工学コースの歩み

昭和56年1月19日

地震工学コース設置に係る打合せ（JCA、外務省、建設省他）

昭和56年2月12日

同上

昭和56年7月1日～同年7月9日

インドネシア国地震工学コース事前調査団派遣（団長：山村研修事業部長）

昭和56年9月28日～同年10月3日

インドネシア国地震工学コース実施協議調査団派遣（団長：大槻理事）

R/D作成署名

昭和57年3月13日～同年4月23日

第1回地震工学セミナー開催（英文名：International Seminar on Seismology and Earthquake Engineering）

昭和58年1月15日～同年2月25日

第2回地震工学セミナー開催（英文名：International Seminar on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers）

昭和59年1月14日～同年2月24日

第3回地震工学コース開催（英文名：The Third International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers）

昭和59年2月15日～同年3月10日

地震工学コース研修管理調査団派遣（団長：宮本研修事業部長）

昭和60年1月12日～同年2月26日

第4回地震工学コース開催（英文名：The Fourth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Seismologists, Volcanologists and Geologists）

昭和60年2月15日～同年2月26日

インドネシア国第三国研修（家畜疾病診断・防疫計画コース及び地震工学コース）管理調査団派遣（団長：石崎研修事業部管理課長）

Ⅲ-3 今年度コース（第4回目）の評価

(1) 評価の方法

評価方法については調査団があらかじめ用意した質問状（Questionnaire）を2月22日（金）居住研において研修員に趣旨説明の上配布，回収し，回答結果を同日深夜から翌23日夕刻にかけて集中的に分析し，調査団としての評価に対するコメントを作成した。この中でアドミ（運営に関する事項）については研修員が別途提出せる Recommendation（別添）（JICAの Final Report に相当する）も参考とした。

なお，質問状の集計結果の一部は2月23日（土）に举行された本コースの閉講式における山村ジャカルタ事務所長の挨拶の中に急きょ組み込むなど工夫した結果，関係者の関心を大いに高めるのに効果があった。

本調査団は評価の概要を一応「イ」側に口頭で伝えるとともに帰国後，評価結果を英訳しジャカルタ事務所経由で「イ」側関係機関へ送付した。（英文書簡は別添資料参照）

(2) 評価結果

一部に改善を要する事項はあるものの総合的には概ね評価出来ると判断される。評価結果の詳細は以下のとおりである。

I コース目的

- (1) コース目的の認識度合については来日前に多かれ少かれ一応知っていた人は65%いるものの少ししか知らなかった者，ないし全く知らなかった者が全体の35%（内全く知らなかった者10%）であった。

なお，直接的な原因はわからないがこの内少くとも1名については事前にGIを読んでおらず，又3名の研修員（アルジェリア，バングラデシュ他1ヶ国）については受入決定通知を渡航前10日前知らされたとしており，充分コース内容（GI記載事項）に目を通す時間的予猶が無かったと推測される。

- (2) コースの目的達成度合については9割の研修員が達成されたと回答しており，又コース

に対する期待感も9割の研修員が充足されたとしているところから一応満足出来る結果であった。

II カリキュラムデザイン

- (1) 科目の範囲については67%が適当と回答しているものの、残る33%のものは広すぎるとしており、又10%の者が狭すぎるとしている具合に意見が分れている。

又、レベルについて72%が適当であったと回答しているものの、残る28%についてはやや高度であったとする者と、やや低いとする者が相半ばしている。

原因はいろいろ考えられるであろうが、参加研修員の専門分野が地震学、火山学、地質学に分かれているところから特定科目の範囲のとらえ方が人によって異なっていることも一因として考えられる。

- (2) 時間配分

講義時間の配分については適当であると回答したものが5割(48%)おり4割弱のものが少し少かったと回答している。

討義の時間配分についても4割弱の者がやはり少かったとしており、さらに、研修員の参加度合(実習を含む)の時間配分については適当であったと答えたものはわずか3割程度であり、少かったとしている者は7割程度にも達している。

一応見学の時間配分については適当であったとする者が7割弱で2割強の者は多かったとしている。

以上の回答を総合判断するに見学の時間配分を少くし、この分を講義、討義、研修員による直接参加プログラム(実習等)へ振り向けるべきであると思われる。

- (3) 密度についてはハードであったとする者2割、時間をもて余したとする者1割と意見が分れているものの7割の者が適当であったと回答しているところ概ね適当であったと思われる。

- (4) 期間については適当であったと回答した者が6割いるものの短かかったとする者25%逆に長かったとする者15%と分かれている。

III コースの実施

- (1) 教授方法(本項目については教課科目(21科目)を対象に以下の事項について調査したものである)

a. 教授方法及びプレゼンテーションの方法

全体の97%の者が良かった(同51%の者が非常に良かった)としており、高く評価される。

b. コミュニケーション(言葉)

90%の者は良かった(内41%は非常に良かった)としているところ高く評価され

る。

c. 研修員の直接参加

93%の者が良かったとしているところこれも問題なく評価される。

d. 教材の質及び量

92%の者が良かったと回答しているところ何ら問題はないと思われる。

e. 研修施設の質 (Teaching Facilities)

86%の者が良かったと回答しており、一応問題ないと思われる。

f. 総合評価

以上の事項に関し、総合評価を研修員に対し求めたところ実に97%の者が良かった(内40%が非常に良かった)としており本コースの講義の内容方法等は高く評価される。

(2) 習得技術の活用

89%の者が活用出来ると回答しているところ、ほぼ満足すべきと思われる。

IV コース運営管理

(1) コース実施上のコーディネーション

76%の者が良かったとしており、一応評価出来るが、残る24%の者はまず良かったと答えているところ改善の余地が見られる。

(2) 事前のインフォメーション

67%の者が良かったと回答しているものの、まず良かったとする者が33%ある(内その半分は非常にまず良かったとしている)。

効率的な研修コース実施上研修員に対する事前インフォメーションを十分に与えることは不可欠の事項であることを考えれば33%の数字は注目に値する。

本件については前述(コース目的の認識度合の項)にて指摘のとおり研修員がGIを読んでもおらず、又受入決定通知を渡航直前に知らされたことによるものと推測される。

回答結果は前述(コース目的の認識度合の項)の設問に対する回答振りと相通ずるものがある。

(3) 研修旅行のアレンジ

良かったと回答した者が67%に対し、まず良かったと回答した者が33%いる。

原因はいろいろ考えられるが、次回コースのアレンジに於ては本質問状のコメント欄に指摘のとおり現場視察には参加者の質問に即座に対応出来る得るようなハイレベルの人材を同行すべきである。

又、Recommendationにも同様の指摘があるように、研修旅行は見学に止まらず現場研修(Field Workshop)形式で行われるべきであり、研修員がその場で地質学、火山学、

地震学の現象について経験度の高い講師から学べるように配慮すべきである。

(4) アローワンスの額

53%の者が適当であったと回答しているものの、残る47%の者は少かったとしている。但し、第三国研修員だけを取り出して見れば、75%が適当であると回答、25%が少かったと答えているところアローワンスの額については一応適当であると思われる。

(5) 厚生活動

84%の者は良かったと評価しており、まずかったと答えた者はわずかに16%に止まる。recommendationによれば研修員、オーガナイザー、講師の三者の友好、協力関係を増進する意味からもっと多くの社会文化交流の機会を適宜設けて欲しいとしている。

(6) 宿舎・食事、交通手段、研修員間の意志疎通についてはいずれも満足すべき状態であったと回答しており、特に問題はないと思われる。

V 研修成果(技術知識の達成度合)

実に100%の者が技術知識の達成度合が高く、研修成果があったと答えており、総合的に判断して今回の研修は一応目的が達成されたと思われる。

III-4 次年度(第5回目)コース概要案

たまたま次年度コース概要検討のため2月22日(金)午後、本コースのOrganizing Committeeが居住研究所(IHS)において開催されることになったので、本調査団もこれに参加し、日本側の基本的な考え方等を適宜発言し、「イ」側との間で意見交換を行った。この結果は恒例によりMinutes of Discussions(Mr. Ritonga IHS所長と服部部長間で署名)にとりまとめられた、なお会議の昌頭石峰団長より特に発言を求め、右ミニッツはIHSと日本側講師陣が次回コース概要につきプロポーズするもので、何らJICAとしてこれをコミットするものではないことを確認し、了解を得た。概要は以下の通りである。

(1) 次回コースの名称

次回コースの名称は「The Fifth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers」とし、今回コースが地震学中心であった研修内容を地震工学中心とする。

研修内容の変更に伴い見学日数も少くなるので研修期間を44日間(今回コースは46日間)とする。

(2) 短期派遣専門家

次年度コースの検討課題としてコースの実施体制即ち、日本側講師の責任分担が挙げられる。因みに、第4回コース実施に係る「イ」側と「日」側の講師責任分担は約20%対80%と依

然として日本側講師への依存度が高い。

本調査団より、もし同研究所から講師を指名配置するのが困難なのであればJIOAは旅費、謝金等を支払う用意があるので外部講師の登用を図り「イ」側講師の責任分担率を高め、日本側講師の派遣人数を減らすことが第三国研修の趣旨からみても必要である旨説明した。これに対しMr. Ritongu 所長より発言があり、日本側の趣旨は基本的に理解出来るが、コース内容を常にアトラクティブなものにするには、今後とも現状と同じ人数レベルの日本人専門家の派遣は是非必要であり、参加国研修員のニーズに対応し、新しい科目を随時加えていくためには、IHSの講師だけでカバーすることねむずかしい。については「イ」側としても次回コースの講師数を増やすよう努力するので、日本人専門家のドラスチックな削減は避けて欲しい旨強く訴えるところがあった。

この結果「イ」側の努力もあり、今回「イ」側が提出せる第5回コースの講義部分に係る「イ」側「日」側の講師分担比率はそれぞれ32%、68%と第4回コースに比べれば若干の改善は見られるものの日本側講師数に依然として5名を数え、改善が望まれるところである。

「イ」側としては第6回コース以降(61年度以降)についても本コースの継続については極めて強い希望を持っているが実施体制即ち、「イ」側講師陣の充実をどう図るかが鍵になると思われる。

講師リスト

I N D O N E S I A

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. TEDDY BOEN | (DESIGN COMPANY) |
| 2. K A T I L I | (M: |
| 3. WIRATMAN | (DESIGN COMPANY) |
| 4. S A H A R I | (ITB) |
| 5. T U L A R | (IHS) |
| 6. SADIKIN | (IHS) |
| 7. MURDIATI | (IHS) |
| 8. SUWANDOJO | (IHS) |
| 9. SESULO WINALSO | (ITB) |
| 10. ADISUBAGIO | (ITB) |
-

JAPAN

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. Prof. TSUNEO OKADA | (UT) |
| 2. Prof. HIROSHI AKIYAMA | (UT) |
| 3. FUMIO TAKINO | (KDD) |
| 4. Dr. YUJI ISHIYAMA | (BRI) |
| 5. Dr. HISAHIRO HIRAIISHI | (BRI) |

UT : University of Tokyo

KDD : KOKUSAI DEN DEN

BRI : Building Research Institute

講義分相表

Days	Item	Lecturer Occupancy (Days)	
		Japanese	Indonesia
4	MICRO COMPUTER	2	2
1	GENERAL SEISMIC ENGINEERING	0,5	0,5
4	STRUCTURAL DYNAMICS	3	1
5	REINFORCED CONCRETE	4	1
3	FOUNDATION	2,5	0,5
2	STEEL STRUCTURE	2	0
1	MASONRY	0,5	0,5
1	TIMBER STRUCTURE	0,5	0,5
4	STRUCTURAL TEST	2	2
2	COMPOSITE STRUCTURE	2	0
1	INDONESIAN ASEISMIC DESIGN CODE	0	1
28 (100%)		19 (68%)	9 (32%)

(3) 機材供与

要請機材の別添議事録の ANNEX(III)のとおりであるが、中には金額が大きすぎ専門家の携行機材による対応を超える要請内容も含まれていたため、調査団より「イ」側に対し、第三国研修の趣旨から既存の機材を利用しその範囲内で研修を実施するのが建前であり、この種機材供与要請に応じるのは第3回研修ではなじまず仮に行うにしても違った型で行うべき旨説明するとともに、たまたま同席した技調委の Mr. Supurapt (TCDC 担当) に対し、TCDC Pooling Fund 等「イ」側経費による購入の可能性を打診したが、「イ」側としては Light Material 程度の予算措置しか期待出来ず大型機材の購入は不可能との由であった。(なお、「イ」側は第5回コース実施分に係るローカルコスト分として RS 12,000,000 を手当している旨明らかにされた。又、第4回コースの実施経費の主たる財資は、JICA, TCDC Pooling Fund, IHS の3者から支出されており、このうち、TCDC Pooling Fund の用途は次の4項目であることが判明した。

- Honorium (謝金)
- Administration (管理運営費)
- Light materials (小規模資材費)
- Study tour (研修旅費)

いずれにしても本要請は議事録の ANNEX (IV) のカリキュラムを考慮に入れて作成されたも

のであり、ひいては日本側講師の陣容との関連もあると思われるので今後の検討課題である。

(4) 今後の方向

Mr. Ritonga 所長より、本件第三国研修を61年度以降も継続実施して欲しい旨強く訴えるところがあり、これに対して当調査団より、61年度以降(第6回コース以降)どうするかについては、今回の評価調査の結果及び「イ」側の自立体制の確立計画等も併わせ検討の結果決めた旨発言しおいた。

(5) 次回コースの概要についての議事録

服部専門家とMr. S. M. Ritonga 居住研究所長との間で交わされた次回コースの概要に関するMinutes of Discussionは次のとおりである。

なお、Minutesの表現ぶり等につき、本調査団より適宜発言を求め、案文に修正を加えたが、1部例を以下に引用する。

ア. The Future Courses commencing from the Fifth Courses を The Future Courses hereby - proposed to be continued ... に修正。これは案文によれば、恰も5回以降のコース実施が決定された如き印象を与えるおそれなしとしないためである。

イ. 「Lecturers」の項に関し、案文では、Lecturers for the Course are appointed from Japan and Indonesia を ... are appointed from Indonesia and Japan という具合にインドネシアと日本の順序を逆にした。これは出来るだけ「イ」側が主体的に責任をもって講義を担当するという気持ちを少しでもにじみ出させるためである。

MINUTES OF DISCUSSION OF
THE FIFTH INTERNATIONAL ADVANCED COURSE ON
SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING

MINUTES OF DISCUSSION OF
THE FIFTH INTERNATIONAL ADVANCED COURSE ON
SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING

The Japanese short term experts dispatched by Japan International Cooperation Agency as the lecturers of the " Fourth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for seismologists, volcanologists and geologists " which is being held during the period of January 12 to February 26, 1985 in Bandung, headed by

Dr. Sadaiku Hattori
Director of International Institute of Seismology
and Earthquake Engineering, Building Research Institute
Ministry of Construction, Government of Japan

had a series of discussions during the course with the staff headed by

Mr. Sahat Mulia Ritonga
Director of Institute of Human Settlements
Agency for Research and Development
Ministry of Public Works, Republic of Indonesia ,

for the successful implementation of the Fourth Course as well as the coming courses.

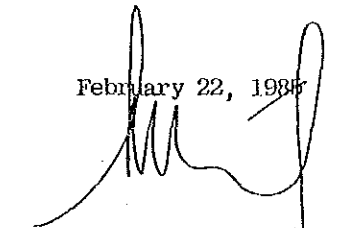
As the result of the above discussion, Dr. Sadaiku Hattori and Mr. Sahat Mulia Ritonga also agreed to propose the matters referred to in the documents attached hereto for the successful implementation of the fifth course.



Dr. Sadaiku Hattori

Director of International Institute
of Seismology and Earthquake
Engineering
Building Research Institute
Ministry of Construction
Government of Japan.

February 22, 1985



Mr. Sahat Mulia Ritonga

Director of Institute of Human
Settlements,
Agency for Research and Development
Ministry of Public Works
Republic of Indonesia.

Attached to Minutes of Discussion of the Fifth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering

1. Title of the Programme and General Information

The title of the programme will be the " Fifth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers ". Annex I indicates the draft of the General Information for the Fifth Course.

2. Tentative Schedule for Preparation

The tentative schedule for preparation of the Fifth Course is attached as Annex II.

3. Equipment

The equipment which will be necessary for the Fifth Course is listed in Annex III. The equipment for the previous courses as well as for the future course should be fully utilized.

4. Future Courses

The future courses hereby proposed to be continued from the fifth course on, should be conducted for structural engineers, and seismologists, volcanologists, geologists, etc. Especially the course for seismologists, volcanologists and geologists should be conducted once more to let participants get used to all equipments concerned (Annex IV).

5. Others

Other matters will be followed as stipulated in the Record of Discussions for the First Seminar agreed by Mr. Akio Otsuki and Mr. Radinal Mochtar on October 2, 1981 in Jakarta.

ANNEX I

THE FIFTH INTERNATIONAL ADVANCED COURSE
ON SEISMOLOGY AND
EARTHQUAKE ENGINEERING
FOR STRUCTURAL ENGINEERS

INDONESIA, JANUARY 11 TO FEBRUARY 23, 1986

Cooperation between
the Government of Japan and the Government of Indonesia

Organizing Committee



INSTITUTE OF HUMAN SETTLEMENTS
AGENCY FOR RESEARCH AND DEVELOPMENT
MINISTRY OF PUBLIC WORKS
94, Jl. Taman Sari - Indonesia; Telp.: 61082/83; Telex: 28327 DBR BD IA



Japan International
Cooperation Agency

Dear Sir / Madam,

We have the pleasure in sending you a booklet containing information and an application form for the course to be held in Indonesia, January 11 - to February 23, 1986. The Course is entitled : " The Fifth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers ".

This Course is organized in Indonesia as the result of the agreement achieved in the technical cooperation programme between the Government of Japan and the Government of Indonesia.

We herewith invite you to nominate candidates to participate in this course. Those concerned have to fulfill the requirements as stated in the booklet.

The application will be closed on September 17, 1985.

Hoping to hear from you at your earliest convenience regarding nominations you may wish to make.

With kind regards.

Yours faithfully,

Sahat Mulia Ritonga

DIRECTOR, INSTITUTE OF HUMAN SETTLEMENTS

Introduction

Many countries in South East Asia and the Pacific areas are crossed by or bordered with the earth's seismic belts in which occurrence of earthquakes and quakes are quite frequent. Often they cause considerable loss of human life as well as material damage. Indonesia is situated in two of the three seismic belts of the world, with about 400 earthquakes occurring annually with epicentres within the Indonesian region.

In the framework of disseminating the technical knowledge and knowhow of Seismology and Earthquake Engineering, a cooperation has been agreed, between the Government of Japan and the Government of Indonesia.

It covers an advanced course, in which the Government of Japan will sponsor prospective participants and lecturers with fellowships, and the Government of Indonesia will be the host country by organizing the course.

Organization of the Course

The Course is jointly conducted by :

The Institute of Human Settlements (IHS) - The Agency for Research and Development, Ministry of Public Works, Government of Indonesia.

Under the Technical Cooperation among Developing Countries Programme, The Secretariate Cabinet of the Republic of Indonesia

and

The Japan International Cooperation Agency (JICA), Government of Japan, under the Third Country Training Programme.

This course is arranged with the cooperation of the International Institute of Seismology and Earthquake Engineering (IISEE); Building Research Institute (BRI), Ministry of Construction, Government of Japan.

The purpose of this course are :

1. To increase the knowledge of Structural Engineers in developing countries by introducing and exchanging the up-to-date and advanced knowledge and practical technics of Seismology and Earthquake Engineering achieved in Earthquake hazard countries.

2. And thus contribute to finding the solution to the problems of prevention and mitigation of earthquake damage according to the specific feature of each country.

The Course will stress on practical aspects of structural engineering .

Qualification of Applicants

Applicants from each country are to :

- a. be nominated by their governments in accordance with the procedure mentioned in the procedure of application section of this brochure,
- b. be university graduates or equivalents and actively engaged in the field of structural engineering preferably with experience for more than 3 (three) years,
- c. be more than 25 (twenty five) years of age,
- d. have a sufficient command of spoken and written English, and
- e. be in good health, both physically and mentally, to participate in the course. Female participants being pregnant will not be allowed to join the course,
- f. in principle, applicants who had participated in previous courses are not liable for selection by the Organizing Committee.

Duration

From January 11 to February 23, 1986.

Institution

Institute of Human Settlements, Agency for Research and Development
Ministry of Public Works

Jalan Tamansari 84 (Trcnolpos 15)

BANDUNG 40132 - Indonesia

Phone : 81082 - 81083

Telex : 28327 dbr bd ia

Language

The Course will be conducted in English.

Procedure of Application

1. a) The Governments desiring to nominate applicant(s) for the Course, should complete the following :

- i) Five copies of the enclosed " Nomination Form for training in the framework of Technical Cooperation among Developing Countries Programme, The Republic of Indonesia ".
- ii) Five copies of a Health Certificate by September 17, 1985 at the latest, through the Embassy of Indonesia, located in the respective countries. In cases where no Embassy of Indonesia is represented, the copies can directly be submitted to :

The Secretary Cabinet of the Republic of Indonesia
 c/o Head of Bureau for Technical Cooperation
 Jalan Veteran 17 - Fourth Floor
 JAKARTA PUSAT - Indonesia
 Telex : 44240 SEKNEG IA
 Phone : (02) 342430 - 31 ex 155

b) For administrative purposes of the Course the following should be sent to Institute of Human Settlements (Jalan Tamansari 84, Tromolpos 15, BANDUNG 40132, Indonesia) by September 17, 1985 at the latest :

- i) One copy of the enclosed " Application Form for the Fifth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Structural Engineers.
- ii) One copy of an Abstract of a Report stipulated on page 5 (maximum 3 pages).

2. The Government of Indonesia will inform the applying governments whether or not the nominee(s) are acceptable for the Course, not later than the end of November 1985.

Submission of Report

For the purpose of facilitating the discussion session in the Course, each participant is required to prepare a report on one of the items given below which is mainly related to his or her country and its vicinity and at the beginning of the course submit two copies of the said report according to the submitted abstract attached to the application form :

1. Aseismic code of structures
2. Structural design or seismic safety of structures
3. Elastic analysis, plastic analysis, structural analysis
4. Experiment, experimental technic or data analysis
5. Construction technics
6. Quality control for structural materials
7. Repair and retrofit of structures
8. Earthquake damage of structures
9. Other topics relating to structural engineering.

Lecturers

Lecturers for the Course are appointed from Indonesia and Japan
The lecturers of the previous courses were as follows :

Lecturers from Indonesia

1. Prof. J.A. Katili, Director General of Geology and Mineral Resources.
2. Mr. Pongsama, Secretary General, Ministry of Social Affairs
3. Dr. Adjat Soedradjat, Director of Volcanology
4. Prof. Sosrowinarso, Bandung Institute of Technology
5. Mr. R.P. Soedarmo, Chief Analysis Division, Meteorological and Geophysical Agency.
6. Mr. Suparto, Chief of Volcano Observation, Directorate of Volcanology
7. Mr. Teddy Boen, International Association for Earthquake Engineering
8. Mr. R.B. Tular, Institute of Human Settlements
9. Mr. Wiratman Wangsadinata, P.T. Wiratman and Association Consulting Engineers.
10. Prof. M.T. Zen, Bandung Institute of Technology.

Lecturers from Japan

1. Dr. Sadaiku Hattori, Director of IISEE, BRI
2. Dr. Hisahiro Hiraishi, Senior Research Engineer, BRI
3. Dr. Yuji Ishiyama, Head of IISEE, BRI
4. Prof. Hideaki Kishida, Tokyo Institute of Technology
5. Dr. Toshiyuki Kubota, JICA Expert from BRI
6. Prof. Yutaka Matsushima, University of Tsukuba
7. Prof. Tadao Minami, University of Tsukuba
8. Mr. Hatsukazu Mizuno, Senior Research Engineer of IISEE, BRI
9. Dr. Shinsuke Nakata, JICA Expert from BRI
10. Dr. Yoriehiko Ohsaki, Executive Vice President of Shimizu
Construction Co. Ltd.
11. Prof. Kazuo Oike, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univer-
sity.
12. Prof. Michio Otsuka, Kyushu University
13. Dr. Ken Sudo, Head of IISEE, BRI
14. Prof. Hajime Unemura, Shibaura Institute of Technology
15. Prof. Makoto Watabe, Tokyo Metropolitan Univesity
16. Prof. Izumi Yokoyama, Faculty of Science, Hokkaido University
17. Prof. Yoshiaki Yoshimi, Tokyo Institute of Technology.

Guest lecturers from U.S.A.

(by the aid of USA Agency for International Development through the
National Science Foundation)

1. Mr. H.J. Degenkolb, Consulting Engineer.
2. Prof. P.C. Jemmings, California Institute of Technology
3. Mr. R.G. Johnston, Structural Engineer.
4. Mr. J. Stratta, Consulting Engineer.
5. Prof. A.S. Veletsos, Rice University.

Allowance

JICA will provide :

1. Economy-class air tickets between the International Airports designated.
2. Living allowance.

Certificate

Participants who have successfully completed the course will be awarded a certificate by the government agencies of Indonesia and Japan.

ENTRY FORMALITIES

Immigration

For the purpose of this seminar participants are required to obtain a visa to cover the duration of the course. Please note that tourist visas or free entry visas for ASEAN citizens do not apply in this case as the duration of these arrangements is not sufficient to cover the active course.

Participants should apply for visas through the Indonesian Embassy in their countries after being contacted by the government of Indonesia.

Health

International certificates of valid smallpox, cholera and yellow fever vaccinations are required only for participants coming from infected areas.

Customs

Customs allow on entry a maximum of two litres of alcoholic beverages, 200 cigarettes or 50 cigars or 100 grams of tobacco and a reasonable amount of perfume per adult.

Photographic equipment, typewriter and radio are admitted provided they are taken out on departure (re-exported). They must be declared to the customs.

There is no restriction on import or export of foreign currencies and travellers cheques, however, the import or export of Indonesian currency exceeding Rp 50.000,00 is prohibited.

Clothing

Clothing is normally casual in Indonesia and light clothing is advisable due to the hot, humid climate. A jacket and tie are required only for formal occasions or when making official calls. National dress of visitors from abroad is also very proper. For travel to mountain areas, a light sweater or jacket is recommended. Batik-shirts (short and long sleeved) are popular for informal parties and social evenings.

Other Information

1. Participants are requested to arrive in the Republic of Indonesia on the date designated by IHS. However, the date will be finally confirmed with the air-tickets sent to the participants through JICA.
2. On arrival at Halim International Airport in Jakarta, participants will be met by a representative of IHS. Necessary care of the participants, thereafter, will be taken by IHS throughout the duration of the Course.
3. In case of emergency, due to " out of schedule " occurrence, participants can proceed to Hotel Wisata International, Jalan M. H. Thamrin , Jakarta (behind Hotel Indonesia).
Phone : 320308.
4. Participants are strongly requested not to bring any members of their families.

TENTATIVE CURRICULUM FOR 1986

MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
					Jan 11	12
					Arrival at Jakarta	Observation in Jakarta
13	14	15	16	17	18	19
Opening Ceremony Move to Bandung	Orientation & Interview	Micro Computer (1) (2)	Micro Computer (3) (4)	General Seismic Engineering (1) (2)	Micro Computer (5) (6)	Free
20	21	22	23	24	25	26
Structural Dynamics (1) (2)	Structural Dynamics (3) (4)	Presentation by Participants	Micro Computer (7) (8)	Micro Computer (9) (10)	Reinforced Concrete (1) (2)	Move to Bali
27	28	29	30	31	Feb 1	2
Reinforced Concrete (3) (4)	Foundation (1) (2)	Foundation (3) (4)	Reinforced Concrete (5) (6)	Foundation (5) (6)	Reinforced Concrete (7) (8)	Move to Bandung
3	4	5	6	7	8	9
Reinforced Concrete (9) (10)	Steel Structure (1) (2)	Steel Structure (3) (4)	Masonry (1) (2)	Masonry (3) (4)	Timber Structure (1) (2)	Free
10	11	12	13	14	15	16
Structural Dynamics (5) (6)	Structural Test (1) (2)	Structural Test (3) (4)	Structural Test (5) (6)	Structural Dynamics (7) (8)	Observation Day	Free
17	18	19	20	21	22	23
Structural Test (9) (10)	Composite Structure (1) (2)	Composite Structure (3) (4)	Preparation for Presentation	Final Presentation Closing Ceremony	Move to Jakarta	Leaving Jakarta

ANNEX II

TENTATIVE SCHEDULE FOR PREPARATION

MONTH	INDONESIAN SIDE	JAPANESE SIDE
March 1985	1. Preparation of G.I.	
April 1985	1. Request from Setkab to Japanese Embassy. 2. Submission of A1 forms for 5 Japanese lecturers. 3. Sending G.I. and application form.	
June 1985	1. Sending of A2 - 3 forms	
August 1985	1. Selection of lecturers. 2. Submission of Bill of Estimation.	1. Selection of lecturers
September 1985	1. Receiving of application forms. 2. Dispatching Indonesian counterpart to Japan.	1. Submission of B1 form. 2. Decision of the budget for implementation of course. 3. Sending of shipping documents.
October 1985	1. Selection of participants.	1. Sending equipment
November 1985	1. Notification of the selection of participants.	
December 1985	1. Receiving typed manuscripts of lecture notes.	1. Sending typed manuscripts of lecture notes.
January 1985	1. Start of the course	1. Dispatch of lecturers.

ANNEX III

LIST OF EQUIPMENT

A. Equipment for technical purposes

- | | | |
|----|--|------------|
| 1. | Hydraulic Jack capacity 5 tons, stroke 150 mm.
pull and push system. | 2 sets |
| 2. | Hydraulic Jack capacity 20 tons, stroke 300 mm.
pull and push system. | 2 sets |
| 3. | Load cell (push & pull) capacity 5 tons | 2 pieces |
| 4. | Load cell (push & pull) capacity 20 tons | 2 pieces |
| 5. | Tools for experiment | 1 set |
| 6. | Automatic data acquisition system | 1 set |
| 7. | Strain measuring set | 100 pieces |
| 8. | Small test specimen | 1 set |

B. Equipment for administrative purposes

- | | | |
|----|---------------------------------|---------|
| 1. | Typewriter for computer | 2 sets |
| 2. | Photocopy machine | 1 set |
| 3. | Typewriter (for participants) | 12 sets |
| 4. | Small bus | 1 set |

ANNEX IV

1987 Course for seismologists and volcanologists and geologists.

1988 Course for structural engineers.

1989 Course for earthquake engineers.

Ⅲ-5 その他の協議事項

1) 2月21日ホテル「Panghegar」に於ける IHS 関係者との打合せ

(1) 選考結果の通報

IHS のジャカルタ事務所に対する応募者選考の結果についての報告が遅れがちであるが、ジャカルタ事務所としては航空券の送付等の際、研修員の住所、所属、現職等を承知しておく必要があるので人選後速やかに右情報を連絡願った旨申し入れたところ、IHS 側はこれを了承した。

(2) ジャカルタ事務所から IHS への研修経費の送金方法

現在は事務所員がバンドンの IHS へ現金で持参し手渡ししているが危険も伴うので銀行送金としたい旨申し入れたところ、IHS 側より次回コースから Government Rule に従い共同公金口座 (Property Account) を通じての送金にしたい旨回答があった。

(3) 携行機材の引き取りについて

(ジャカルタ事務所及び IHS から本部への要望)

携行機材の引き取りにはフライト No. 及びインボイスを専門家来「イ」1ヶ月前までにジャカルタ事務所に連絡して欲しいとの要望があり、又 IHS としても右関連書類のコピーを入手したいとの申し入れがあった。携行機材の引き取りに必要な手続 P P 1 9 (通関免除特許) を了するには最低1ヶ月を要し、この手続きを完了しておれば専門家の来訪時に引き取り可能との由である。

2) 技調委との協議

滞在費の支給について

ケニアの研修員よりもっと安いホテルに移りたいとの申し出があり本人を説得するのに苦慮したとのことで、その理由は同研修員は昨年度も本コースに参加し、同じホテルに宿泊したが今年は昨年に比べ宿泊料金が大幅に値上り (1泊10ドルから15ドルに値上り) したことによると思われるとの由であった。

本件に関し、技調委より研修員の滞在費から宿泊料金、昼食代等必要経費を差引いた残額を研修員に支給することとし、G I に記載する滞在費もこの残額とすることが出来ないかとの質問があった。

本件について調査団より、現在ジャカルタ事務所より研修員に直接手渡ししている滞在費の支払方法を改め、滞在費を一担、運営委員会に送金し、右宿泊費等必要経費を差引いた残額を研修員に支給してはどうかと回答しておいた。

3) Organizing Committee における協議

(1) 空港使用税について

研修員よりインドネシア出国の際の出国税 (4,000 RP) を負担して欲しいとの要望があ

るので、この出国税を例えば航空券に含める等の方法で日本側が負担出来ないかとの要請が「イ」側より出された。本調査団より本件については帰国後検討すると回答しておいた。

(2) General Meeting の開催

現在コース終了直前に開催している General Meeting を研修期間の中間で、ジャカルタ事務所もまじえ開催し、研修内容等についての研修員の意見を聞き、出来る限りコースに反映させたいとの意見が出された。調査団よりも本件是非共実現したい旨発言しておいた。

Ⅲ-6 本コースの実績・現状

昨年度（昭和58年度）派遣された本コースに係る第三国研修管理ミッションの報告書の中で本コースの実績・現状について既に、報告されているので、本報告書では昨年度と異なる事項について述べることにする。

(1) コース名・研修内容・研修期間

コース名を「The Forth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Seismologists, Volcanologists and Geologists」とし、コースの内容を昨年度の地震工学中心から火山学者、地震学者及び地質学者を対象とした地震学中心とした内容に変更した。

研修期間については研修内容の変更に伴い、火山見学等の日程が必要となり4日間延長し、46日間とした。研修日程は次のとおり。

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday
					Jan. 12	13
					Arrival at Jakarta	Sightseeing Jakarta city
14 -I-	15 -B-	16 -J-	17 -J-	18 -J	19 -J-	20
Opening Ceremony Opening Lecture 'Katili' Move to Bandung	Introduction of I.N.S. Interview	General Volcanology 'Yokoyama' General Earthq Engineering 'Hiraishi'	Mechanism 'Sudo'	Earthq. Prediction 'Oike'	Mechanism 'Sudo' Practice 'Yokoyama'	Free
21 -B-	22 -B-	23 -J-	24 -J-	25 -I-	26	27 -I-
Computer 'Hiraishi' Volcanoes in Bali island 'Zen'	Presentation by Participants	Volcano Observation Technique 'Yokoyama'	Aseismic Design 'Hiraishi'	Social Problem on Earthquake and Volcano disaster 'Pong Samma'	Move to Bali	Obs. of Volcanoes in Bali island 'Suparto'
28 -J-	29 -J-	30 -J-	31	Feb. 1 -I-	2 -I-	3 -I-
Modern idea on Volcanology 'Yokoyama'	Modern idea on Seismology 'Oike'	Strong Motion and Focal Process 'Sudo'	Free	Move to Yogyakarta Volcanoes in Jawa island 'Sudradjat'	Observation and lecture on Merapi 'Suparto'	Obs. of Mt. Dieng 'Suparto' Move to Baturaden
4 -I-	5 -I-	6 -J-	7 -B-	8 -J-	9 -I-	10
Move to Tasikmalaya Mt. Galunggung 'Suparto'	Obs. of Mt. Galunggung 'Suparto' Move to Bandung	Computer 'Hiraishi' Mechanism 'Sudo'	Strength of Structure 'Boen' Mechanism 'Sudo'	Prediction of Volcano Eruption 'Yokoyama'	Observation Saguling Dam 'Soemani'	Free
11 -J-	12 -J-	13 -J-	14 -I-	15 -I-	16 -I-	17
Mechanism 'Sudo' Plate Tectonics 'Oike'	Aseismic Code in Japan 'Hiraishi'	Earthquake Observation Technique 'Oike'	Computer 'Sudo' Japan-U.S. Joint Research 'Nakata'	Visit to Lembang geophysical observatory 'Sudarmo'	Observation and lecture on Sukabumi 'Sudarmo'	Free
18 -J-	19 -I-	20 -J-	21 -B-	22	23 -B-	24
Analysis of Seismogram 'Sudo'	Aseismic Code in Indonesia 'Wiratman'	Seismic Risk analysis 'Hattori'	Countermeasure Acts 'Iwami' General Meeting	Preparation of Final Presentation	Presentation by Participant Closing Ceremony	Move to Jakarta
25	26	Indonesian 13 days Japanese 16 days Both 6 days Miscellaneous 11 days				
Free (Courtesy Call; Embassy and JICA-office)	Leave Jakarta					

(2) 講 師

本コースは第1回目より日本人講師の講義分担率が高く、今回コースについても「イ」側と日本側の講義分担率はそれぞれ約20%及び80%であった。従ってセミナー運営にとり日本人専門家の役割は非常に大きく、前述のとおり「イ」側の改善が望まれるところである。今回コースの講師陣は次のとおり。

講 師 リ ス ト

- | | | |
|----------|---|--------|
| (日本) | 1. 横山 泉 (北大・教授) | 火山学 |
| | 2. 尾池和夫 (京大助教授) | 地震学 |
| | 3. 服部定育 (建築研) | 地震学 |
| | 4. 須藤 研 (建築研) | 地震学 |
| | 5. 平石久広 (建築研) | 地震工学 |
| | 6. 石見利勝 (建築研) | 地震防災 |
| (インドネシア) | | |
| | 1. Prof. J. A. Katili (DGGMR) | テクトニクス |
| | 2. Prof. S. Nakata (I.H.S) | 地震工学 |
| | 2. Mr. Pongsawa (SGMSA) | 地震防災 |
| | 3. Dr. Adjat Soedrajat (VSI) | 火山学 |
| | 4. Mr. R. P. Soedarmo (MGA) | 地震学 |
| | 5. Mr. Suparto (VSI) | 火山学 |
| | 6. Mr. Teddy Boen (IAEE) | 地震工学 |
| | 7. Mr. Wiratman Waugsadinata
(P.T.W.A.C.E) | 地震工学 |
| | 8. Prof. M. T. Zen (ITB) | 火山学 |

※DGGMR : Director General of Geology and Mineral Resources
SGMSA : Secretary General, Ministry of Social Affairs
VSI : Volcanological Survey, Indonesia
MGA : Meteorological and Geophysical Agency
IAEE : International Association for Earthquake Engineering
P.T.W.A.C.E : P.T. Wiratman and Association Consulting Engineers
I.T.B : Bandung Institute of Technology

(3) カントリーレポート

研修員は要請書の提出の際提示されたタイトルの中から1つを選択し当該国の状況をレポートにまとめ提出した。前回コースと同様、研修員はこのレポートを研修時に発表し更に、講師の協力を得て最終レポートに仕上げられセミナー終了時に提出した。

研修員レポートの標題

- | | |
|--|--|
| 1. Azzedine Haouara
(Algeria) | Aseismic Code in Algeria (Hiraishi.21) |
| 2. A.K.M.Shahidul Hasan
(Bangladesh) | Seismic Zoning in Bangladesh (Oike.22) |
| 3. K.B.Draunidalo
(Fiji) | Seismicity in and around the Fiji Region
(Oike.8) |
| 4. Surendar Kumar
(India) | Tectonic and the Lithospheric Contortion
At Andaman-Nicobar Region (Oike.17) |
| 5. Naphtali Kamundia
(Kenya) | General Aspects of the Western African Rift
Valley (Sudo.9) |
| 6. Lim Peng Siong
(Malaysia) | Seismic Activities in Sabah : Relationship to
Regional Tectonics (Sudo.15) |
| 7. Kanwar Salir Ali Khan
(Pakistan) | The Earthquake Problems and Programmes
in Pakistan with Special Reference to the Pattan
Earthquake of December 28, 1974 (Sudo.1) |
| 8. Luke Bibot Paluck
(Papua New Guinea) | Earthquake Disaster Mitigation in Papua New
Guinea (Oike.19) |
| 9. Angeles G.Doniego
(Philippine) | Seismological Service of the Philippine Atmo-
spheric Geophysical and Astronomical Services
Administration (Sudo.4) |
| 10. Sumalee Samootsakorn
(Thailand) | Seismic Risk and b-Value in Thailand and Sur-
rounding Area (Sudo.11) |
| 11. Plew Chittrakaru
(ditto) | Relationship between the Seismicity and Geolog-
ical Aspects in Khao Leam Dam, Thailand
(Oike.23) |
| 12. A Oguz Ozel
(Turkey) | Earthquake Prediction Projects on the Western
Part of the Anatolian Fault Zone (Sudo.16) |
| 13. Putu Pudja
(Indonesia) | The Possibility of the Induced Seismic Activity
in the Jatiluhur Reservoir Region (Oike.20) |
| 14. Abdul Gapur
(ditto) | A Preliminary Study on the Accuracy of Epicenter
Locations Determined by Meteorological and
Geophysical Agency (Oike.12) |
| 15. Untoro
(ditto) | Earthquake Prediction Based on the Third
Asymptotic Distribution (Sudo.18) |
| 16. Boedi Swasana
(ditto) | Pile Foundation (Nakata.3) |
| 17. Serrano Sianturi
(ditto) | Soil Problems and Behavior (Hiraishi.13) |
| 18. Undang Rohandi
(ditto) | Seismic Exploration for Investigating Subsurface
Structures (Soewani.10) |
| 19. Indyo Pratomo
(ditto) | The Information System Suitable for Volcanic
Eruption Warning (Yokoyama.24) |

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 20. Kastiman Sitorus
(ditto) | The Active Volcano Distribution in Indonesia and the Tectonics Relation (Yokoyama,24) |
| 21. Isya Nurahmat Dana
(ditto) | Volcanic Hazard Map of Galunggung Volcano and Its Application (Yokoyama,26) |
| 22. Akhmad Zaenudin Iksha
(ditto) | Relationship Between Volcano Geologic Map and Volcanic Hazard Map (Yokoyama,14) |
| 23. Igan S. Sutawidjaja
(ditto) | Chemical Analysis Related to Seismicity Monitoring during the Mt.Galunggung (Yokoyama,6) |
| 24. Djatining Pangluar
(ditto) | Kelud Volcano It's Hazard and Prevention (Yokoyama,2) |
| 25. Hasanuddin Widenda M
(ditto) | Three Special Cases in Seismic Refraction (Soemani,5) |
| 26. Makmur Nakakusumah
(Indonesia) | Micro-tremor Measurement in Ciloto, Ciaujur-West Jawa (Soemani,25) |

- | | |
|--|---|
| 1. Earthquake Damage of Reinforced Concrete Buildings . | Commentary of slides |
| 2. Southeast Asia Tectonic framework, Earth resources and Regional Geological Programmes . | by : Prof. J.A. Katili |
| 3. A Review of the Geotectonics of the Western Pacific Region with Special Reference to Southeast Asia. | by : Prof. J.A. Katili |
| 4. Development of the Earthquake Resistant Engineering in Japan | by : Dr. Hiraishi |
| 5. A Text for volcano Physics | by : Prof. Izumi
Yokoyama |
| 6. Earthquake Prediction Research in Japan | by : Prof. Oike |
| 7. Focal Mechanism Studies | by : Dr. Ken Sudo |
| 8. Micro Computer | by : Dr. Ken Sudo
Dr. Hiraishi
Dr. Nakata |
| 9. Practice on Seismogram Analysis | by : Dr. Ken Sudo |
| 10. Aseismic Design | by : Dr. H. Hiraishi |
| 11. The Concept of Modern Volcanology and the Volcanology and the Volcanic Geology of Indonesia | by : Prof. M.T. Zen |
| 12. Volcanic Geology in Bali | by : Prof. M.T. Zen |
| 13. On Current Development in Earthquake Resistant Design Procedures for Prefabricated Concrete Buildings in Japan | by : Dr. H. Hiraishi |
| 14. Merapi Volcano | by : Dr. A. Sudradjat |
| 15. Figures and Introduction of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University | by : Prof. Oike |
| 16. Major Components of Mass of the Building in the World Today | by : Mr. Teddy Boen |
| 17. Indeed Earthquakes Associated with Large Reservoirs in China | by : Prof. Kazuo Oike
Mr. Y. Ishikawa |
| 18. U.S. - Japan Cooperative Research Program (Reinforced Concrete Structure) | by : Dr. S. Nakata |
| 19. Seismic Risk Analysis | by : Dr. Sadaiku Hattori |
| 20. Disaster Prevention from Earthquakes and (Social Aspects) | by : Mr. Pong Samma |
| 21. Aseismic Design in Indonesia | by : Mr. Wiratman W. |
| 22. Seismicity in West Java Areas Especially for Sukabumi and the Telemetry Seismic Network | by : R.P. Sudarmo |

(4) 教材

各講師がそれぞれ作成し、講義に使用した Lecture Note は次のとおり。

(5) 研修実施機関（昭和59年公共事業省内の機構改革があった。）

居住研究所（Institute of Human Settlements）

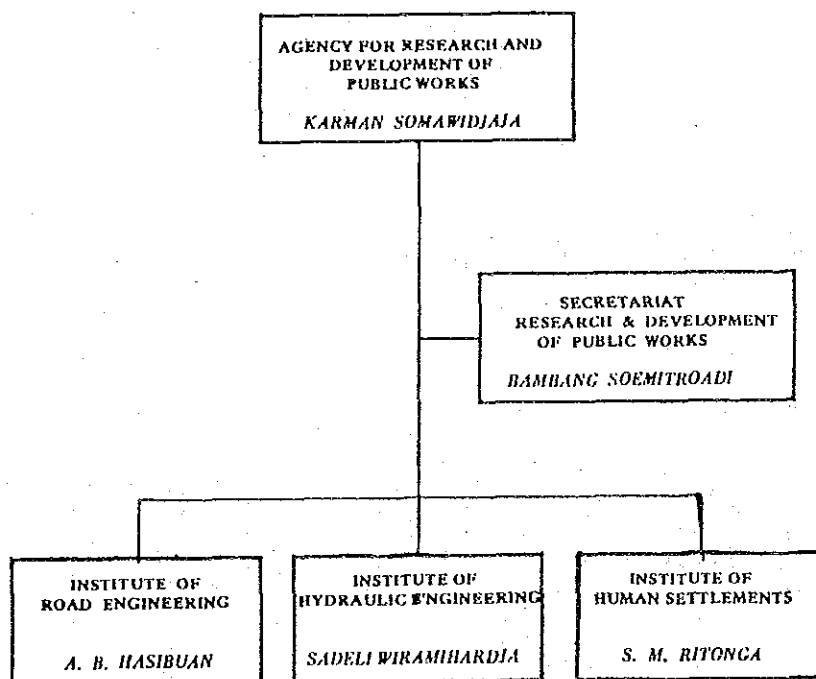
居住研究所はインドネシア国バンドン市84, Jalan Tamamsariに位置し、公共事業省研究開発庁（Agency for Research and Development）に属する。所長はMr. S. M. Ritongaで所長の下に5つの部と研究室をもつ。職員数は81人の研究者を含め約300名。1953年公共事業省のもとに建築研究所（Building Research Institute）として設立されたが1975年公共事業省内の再編成に伴い住宅都市計画総局のもとに建築研究局（Directorate of Building Research）となる。

更に、昨年（昭和59年）の公共事業省内の機構改革により公共事業省研究開発庁の下に現在のIHSとなり、同研究所の業務は従来にもまして研究活動・普及活動に力点が置かれるようになった。

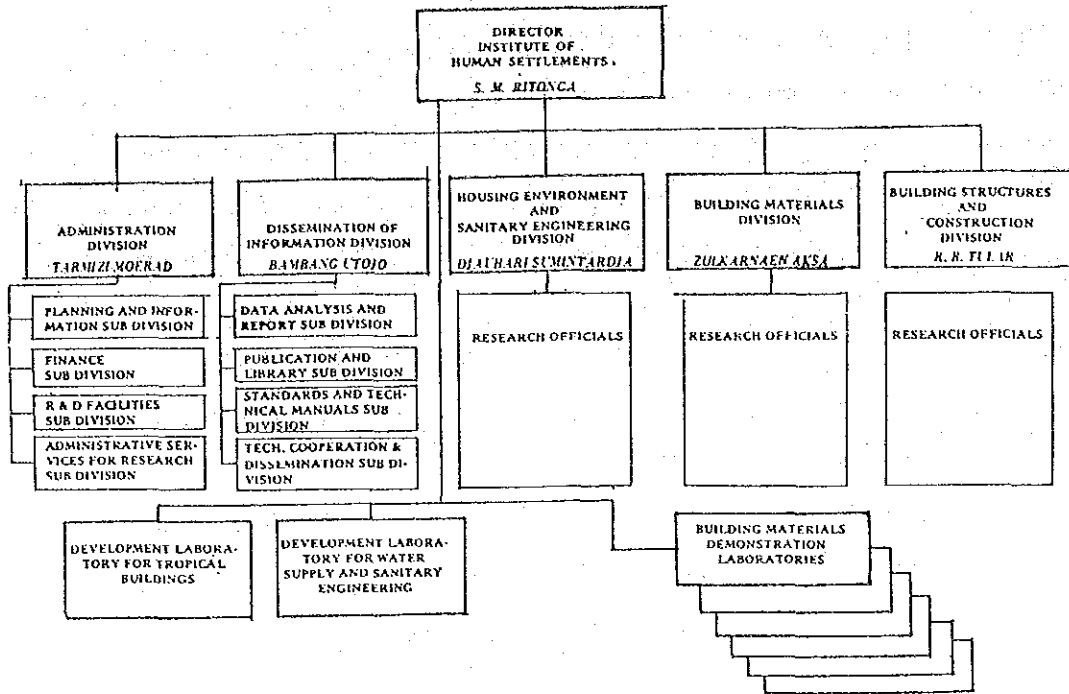
加えて、1955年ECAFEの会議で湿潤熱帯地域住宅センターの設立が提案され、現在IHSはUN Regional Housing Centerとしての役割も担っている。

関係機関組織図

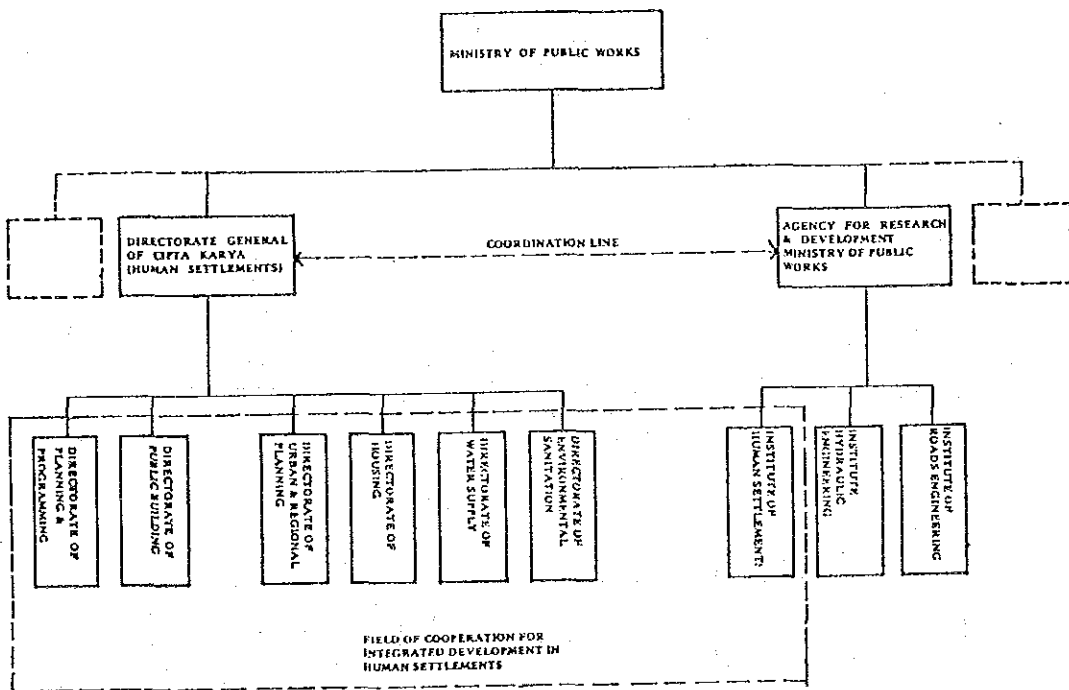
Organization Chart
Agency for Research and Development
Ministry of Public Works



Organization Chart
Institute of Human Settlements



Field of Coordination
Between
The Directorates of the Director General of Human Settlements (Cipta Karya)
and
The Institute of Human Settlements of the Agency for R & D Public Works



(6) 定員及び割当国，応募・回答状況，受入実績

定員及び割当国

定員：第三国 12名
 インドネシア 12名
 計 24名

割当国：16ヶ国（割当率130%）

マレーシア，タイ，フィリピン，インド，パキスタン，ビルマ，PNG，フ
 ィジー，西サモア，ソロモン，ネパール，トルコ，ケニア，北イエメン，
 バングラデシュ，アルジェリア

応募，受入・不能回答，受入実績

応募：バングラデシュ2，フィジー1，インド1，ケニア1，マレーシア1，パキス
 タン1，PNG1，フィリピン2，タイ2，トルコ1，アルジェリア2

受入・不能回答

受入回答：11ヶ国12名

バングラデシュ1，フィジー1，インド1，ケニア1，マレーシア1，
 パキスタン1，PNG1，フィリピン1，タイ2，トルコ1，アルジェ
 リア1

不能回答：バングラデシュ1，フィリピン1，アルジェリア1

	第1回	第2回	第3回	第4回	計
ビルマ	1	1	1		3
マレーシア	1	1		1	3
ネパール	1	1			2
PNG	1		1	1	3
フィリピン	1	1	1	1	4
スリランカ	1		1		2
タンザニア	1				1
タイ	1	1	2	2	6
バングラデシュ		1		1	2
フィジー		1	2	1	4
インド		1		1	2
西サモア		1			1
ケニア			1	1	2
パキスタン			2	1	3
トルコ				1	1
アルジェリア				1	1
計	8	9	11	12	40
インドネシア	15	9	12	15	51
合計	23	18	23	27	91

第 4 回 コース 研修員 リスト

No.	Name	Country	Official Address/Phone Number
1.	Mr. Azzedine Haoura	Algeria	O.C.T.C. Rue Kabbour Rahim, H. Dey - Algeria Phone : 772345 ext. 48
2.	A. K. M. SHAHIDUL HASAN	Bangladesh	Geological Survey of Bangladesh Picner Road, Segunbkhna, Dhaka, Bangladesh Phone : 405131-405135 ext. 52
3.	Mr. K.B.-Draunidalo	F i j i	Mineral Resources Department P.M. Bag Suva, Fiji Phone : 381611
	Mr. Surendar Kumar	I n d i a	Wadia Institute of Himalayan Geology 33, Gen. M.D.S. Road Dehra Dun 248001 Phone : 23052-26335-27387
5.	Mr. Naphtali Karundia	Kenya	Geologist (Ministry of Environ- ment and Natural Resources Kenya. Phone : -
6.	Mr. Lim Peng Siong	Malaysia	Geological Survey of Malaysia, Locked Bag, Kota Kinibalu, Sabah, Malaysia. Phone : 50311
7.	Mr. K.S. Ali Khan	Pakistan	Geological Survey of Pakistan Quetta, Pakistan 13-H-9 Islamabad Phone : 845814
8.	Mr. Luke Bibot Palock	P.N.G.	Department of Mineral & Energy, Geophysical Observatory PO Box 323 Port Moresby - P.N.G. Phone : 214500
9.	Ms. Angeles Doniego	Phillipines	PAGASA (Weather Bureau) 1424 Quenson Blvd-Quenson City, Phillipines Phone : -
10.	Miss Sumale Samootsakorn	Thailand	Meteorological Department 612 Sakuvit Road, Bangkok 10110 Thailand Phone : 3918631
11.	Mr. Plew Chittrakarn	Thailand	Geologi & Soil Engineering Division Project Planning and Investigation, Department Electricity Generating Authority of Thailand, Nonthaburi Phone : 4240101 ext. 3421
12.	Mr. Oguz Ozel	Turkey	Dit. of Technical Research and Application Eskisekinyolu 12 km, Lodumlu, Turkey Phone : 235150-237265-230578.

第4図 研修員リスト (インドネシア人)

INDONESIAN PARTICIPANTS

No.	Name	date of birth	Qualification	Name of Address of Institution	Remarks
1.	Mr. I Putu Pudja (30)	12-12-1954	Dipl. in Geophysics	Meteorological & Geophysical Agency Jalan Arief Rahman Hakim 3, Jakarta Ph. 375508 telex. 45331 meteo jkt	5 yrs exp.
2.	Mr. Abdul Gapur (32)	24-03-1952	Dipl. in Geophysics	ditto	9 yrs exp.
3.	Mr. Untoro (39)	01-10-1945	Seismologist	Dept. of Geophysics & Meteorology ITB Jalan Ganesha 10 - Bandung. ph. 82452 ext. 450	5 yrs exp.
4.	Mr. Muhammed Ahmad Alkatiri (37)	20-11-1947	Seismologist	ditto	5 yrs exp.
5.	Mr. Benny Mustafa (36)	04-01-1948	Mining Geological Eng.	Indonesian Road Research Institute Jalan Raya timur 264, Bandung Ph. 78251/53/54	7 yrs exp.
6.	Mr. Boedi Swasana (42)	28-02-1943	Civil Engineer	Directorate of Public Building Jalan Kramat Raya 63, Jakarta Pusat Ph. 346939/347786/347787/347678	2 yrs exp.
7.	Mr. Serrano Sianturi (24)	13-12-1960	M.Sc. Geotechnical Eng.	ditto	1 yrs exp.
8.	Mr. Abdul Malik (32)	24-04-1952	Structural Civil Eng.	West Java Hydroelectrical Power Proj. Jalan P.H.H. Mustapa 55, Bandung Ph. 73991/73992 P.O.Box 98/Bd.	2 yrs exp.
9.	Mr. Undang Rohandi (33)	19-03-1951	M.App.Sc. Geophysics	Geophysical Research & Development Centre Jalan Diponegoro 57, Bandung	3 yrs exp.
10.	Mr. Indyo Pratomo (31)	23-10-1953	Dipl. Geology/Petrology (Volcano Lab.)	Directorate of Volcanology Jalan Diponegoro 57, Bandung Ph. 73205 - 73208, 72606	5 yrs exp.
11.	Mr. Kastiman Sitorus (32)	24-09-1952	Geologist	ditto	3 yrs exp.
12.	Mr. Isya Hrrahmat Dana (31)	14-11-1953	Geologist	ditto	2 yrs exp.
13.	Mr. Akhmad Zaennudin Ikhsan (30)	19-11-1954	Geologist	ditto	3 yrs exp.
14.	Mr. Igan Supriatman Sutawidjaja (27)	23-07-1957	Geologist	ditto	3 yrs exp.
15.	Mr. Djatining Pangluar (37)	11-02-1947	Geologist	Institute of Hydrolic Engineering Jl. Ir. H. Juanda 193, Bandung Ph. 81607 ext. 274	10 yrs exp.

(7) 精算処理

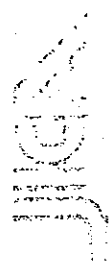
セミナー終了後1ヶ月以内を目途にIHSからジャカルタ事務所に対し実施報告書が提出されるがその中で精算報告がなされる。

精算報告には証拠書類も添付され、その証拠書類はそのままジャカルタ事務所に保管される。

(8) 終了証書

従来は2種類の修了証書即ち、1つはJICAジャカルタ事務所長及び住宅都市計画総局長連名のもの、他の1つは日本の建設省建築研究所長名及びIHS所長連名のものの2種類の証書が授与されていたが、今回はJICAジャカルタ事務所長、建設省建築研究所長及びIHS所長三者連名のもの1種類の証書に改められた。

MINISTRY OF PUBLIC WORKS
AGENCY FOR RESEARCH AND DEVELOPMENT



in cooperation with the

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

award this

CERTIFICATE OF PARTICIPATION

to :
date of birth :
position :
institution :

In Recognition of the Successful Completion of the
FOURTH INTERNATIONAL ADVANCED COURSE ON SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING FOR
SEISMOLOGISTS, VOLCANOLOGISTS AND GEOLOGISTS
held at the Institute of Human Settlements/U.N. Regional Centre for Research on Human Settlements - Bandung
on January 14 to February 26, 1985

Resident Representative of
Japan International Cooperation Agency
Jakarta office

Director of International Institute of Seismology and
Earthquake Engineering
Building Research Institute, Ministry of Construction

Director General of
Agency for Research and Development

HIROSHI YAMAMURA

DR. SADAIKU HATTORI

KARMAN SOMAWIDJAJA

1/18

SUBJECTS COVERED BY LECTURES

- Tectonic Setting in and around Indonesia
- General Volcanology
- General Earthquake Engineering
- Focal Mechanism of Earthquake
- Earthquake Prediction
- Personal Computer
- Volcanoes in Bali Island
- Volcano Observation System
- Aseismic Design
- Social Problem related to Earthquake and Volcano
- Modern ideas on Volcanology
- Modern ideas on Seismology
- Strong Motion and Focal Process of Earthquake
- Volcanoes in Java Island
- Galunggung Volcano
- Strength of Structure against earthquake
- Volcano Eruption Prediction
- Aseismic Code in Japan
- Earthquake Observation System
- Plate Tectonics
- Seismogram Analyses
- Japan -- US Joint Research for Structure Behaviour
- Seismic Risk Analysis
- Aseismic Code in Indonesia
- Earthquake Activity in and around Indonesia

別 添 資 料

別添資料(1)

Jakarta, February 25, 1985

Dr. Daman Danuwidjaja
Director General of
Livestock Services
Ministry of Agriculture

J A K A R T A

Dear Sir,

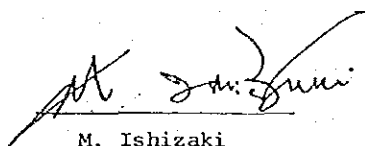
Summary of Evaluation on the Third Country Training Programme
in Diagnosis of Animal Diseases and their Control Programme

Thank you very much for your kind assistance and cooperation for
conducting our duties here in Indonesia.

In this connection, I would like to submit to you a summarized re-
port on our evaluation of the above captioned Programme.

Your kind attention to the matter is highly appreciated.

Sincerely yours,



M. Ishizaki

Head, JICA Evaluation Team

cc.

Mr. Husen Adiwisastro

- Chief, Indonesian TCDC Project,
Bureau of International Technical
Cooperation, Secretariat Cabinet.

Dr. Teken Temadja

- Director of Animal Health,
Ministry of Agriculture.

BRIEF SUMMARY OF JICA QUESTIONNAIRE

I. OBJECTIVES

1. To what extent were you aware of the objectives of this training program before you came to Indonesia ?

Fully aware	57%
Almost Aware	21%
Roughly Aware	14%
Not Aware at all	8%

2. Please indicate whether the main objectives were :

Completely met	29%
Almost met	50%
Fairly met	21%

3. In your opinion, to what extent was your expectation of this Course fulfilled ?

Completely Fulfilled	36%
Almost Fulfilled	43%
Fairly Fulfilled	21%

II. CURRICULUM DESIGN

1. Coverage, Level, Time Allocation, Intensity and Duration

a) Coverage of the subjects

Just right	79%
Somewhat Broad	21%
Too Broad or Incomplete	0%

b) Level

Just Right	86%
Somewhat Advanced	14%
Too Elementary or Too Advanced	0%

c) Time Allocation

Lectures :

Just Right	86%
Somewhat Little	7%
Somewhat Much	7%

Discussion :

Just Right	50%
Somewhat Little	29%
Somewhat Much	21%

Exercises : (Involvement of Participants)

Just Right	43%
Somewhat Little	21%
Too Little	29%
Too Much	7%

Observation :

Just Right	72%
Somewhat Little	14%
Somewhat Much	14%

d) Intensity

Just Right	79%
Somewhat Hard	21%

e) Duration

Just Right	72%
Somewhat Short	14%
Somewhat Long	14%

In view of the above results, JICA Evaluation Team concluded that :

1. Curriculum arrangements for lectures, observation and duration for the First Course were appropriate and well-planned.
2. With regard to discussion in the Course, time allocation seems almost appropriate, with half of the participants commenting on it as "appropriate".
3. With regard to observation (ratio of the participants' involvement) in the Course, it is more advisable to increase time allocation for it, since less than 50% of the participants found it appropriate.
4. Noting the fact that 21% of the participants regarded intensity of the Course as "somewhat hard", while 79% of the participants regarded it appropriate, it is quite advisable to lower the level of intensity a little.

II. TOPICS

All the participants commented that the topics of the Course were arranged systematically.

However, they made following suggestions and indications :

1. At presentation of the country reports, they preferred to have more time for discussing various problems prevailing in their countries.
2. Such materials as typed lecture notes and laboratory booklets should be distributed earlier.
3. Lectures on technical aspects should be increased a little more.

III. THE MOST AND THE LEAST VALUABLE TOPICS

1. The most valuable topics

- a. *FMD Eradication Programme in Indonesia*; 64% of the participants quoted so.
- b. *Epidemiology* ; 21% quoted so

2. The least valuable topics

- a. *Sightseeing in North Sumatera* (2 participants)
- b. 8 topics as listed in the attachment (. See attachment I).

IV. COURSE CONDUCT

1. Refer the filled-in questionnaires compiled by Indonesian side as to Teaching Method (See Attachment II).
2. With regard to application of acquired techniques and knowledge, all the participants replied that they can apply and adopt the techniques and knowledge, which convinced us that the Course was instructive and useful.

V. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

a. Coordination

Outstanding	21%
Very Good	43%
Good	36%

b. Pre-course Information (G.I.)

Outstanding	14%
Very Good	50%
Good	29%
Poor	7%

c. Arrangements for Observation Trips

Outstanding	14%
Very Good	50%
Good	36%

d. Housing and Food Accomodations

Outstanding	7%
Very Good	43%
Good	50%

e. Allowances

Somewhat Much	7%
Reasonable	79%
Somewhat Little	7%
Too Little	7%

f. Transportation

Very Good	7%
Good	64%
Fairly Good	29%

g. Social Program

Very Good	29%
Good	71%

h. Communication among Participants

Outstanding	29%
Very Good	21%
Good	50%

It has been generally understood that coordination, observation arrangements, accomodation, transportation, accessory programs (e.g. social programs), and communication among the participants were largely conducted smoothly.

However, the following matters should be taken into account by the parties concerned.

1. Advance Information (including General Information) was insufficient
2. Allowance for the participants was scarce.

*The above comments were made by one participant respectively.

VI. TRAINING OUTCOME

Very Fruitful	58%
Fruitful	14%
Fairly Fruitful	14%
Not Much Fruitful	14%

With 86% answering "Very Fruitful", the training outcome proved to be satisfactory.

VII. CONCLUSION

As a whole, evaluating comments from the participants turned out to be highly favourable to the Course organizers, proving that they were mostly satisfied with the contents of the Course.

However, there were some noteworthy suggestions for improving the next Course such as :

1. Some improvement will be required to better arrange the study tour; selection of facilities more suitable for the topics, preparations of advance information on facilities to be visited.
2. Time allocation for study tour should be decreased, so that participants may receive more lectures and exercises on technical aspects.

MEMO CONCERNING THE ORGANIZATION OF THE
SECOND YEAR INTERNATIONAL COURSE ON
DIAGNOSIS OF ANIMAL DISEASES AND THEIR
CONTROL PROGRAMME IN 1986.

The Japanese evaluation team on the first year of the International Course on diagnosis of animal diseases and their control programme (hereinafter referred to as Team and as course) organised by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by Mr. Mitsuo Ishizaki, Head of the Administration Division, Training Affairs Department, JICA, visited Indonesia from 15 to 25 February 1985 for the purpose of making evaluation of the implementation of the first year course and discussing the organisation of the second year course.

During its stay in Indonesia, the Team had attended the discussions among the participants of the course, requested them to evaluate the course, joined to one of the observation trips, attended the closing ceremony and had series of discussions with the authorities concerned of the Government of Indonesia and came to the tentative understanding on the framework of the second year course as mentioned in the document attached hereto. The idea incorporated in the document shall be forwarded to both governments for their consideration.

Jakarta, February 15, 1985.

INTERNATIONAL COURSE ON DIAGNOSIS OF
ANIMAL DISEASES AND THEIR CONTROL PROGRAMME

The second year course will be conducted with the following outline :

1. T I T L E

The course will be entitled "International Course on Diagnosis of Animal Diseases and their Control Programme".

2. P U R P O S E

The purpose of the course is :

2.1. to improve the investigation and diagnostic technologies of veterinary officials in Asia and Pacific Regions and to develop animal disease control programme in the said Regions.

2.2 to contribute to the development and extension of these technologies and to strenghtening the integrated animal health control programme in the said Regions.

3. D U R A T I O N

The second year course will be held from January 26, to March 4, 1986.

The Individual Course will be held for a period of three (3) weeks, followed by Group Course for a period of two (2) weeks.

4. C U R R I C U L U M

Tentative curriculum of the second year course is attached in Annex I.

5. METHOLOGY.....

5. METHODOLOGY

5.1. Individual Course.

The Course will consist of lectures and practical activities focussing mainly on the basic and some aspects of advance laboratory diagnostic technique.

5.2. Group Course.

The course will be conducted in the form of a workshop followed by observation trips to central and/or local facilities concerned.

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following will be invited to apply for the course by nominating their applicant(s) :

Brunei, Malaysia, The Philippines, Thailand, Burma, Bangladesh, Sri Lanka, Nepal, Bhutan, Papua New Guinea, Fiji, Western Samoa and Solomon Islands.

7. NUMBER OF PARTICIPANT.

7.1. Individual Course:

The number of participants from invited countries shall not exceed five (5) in total. The number of participants from Indonesia shall not exceed two (2).

7.2. Group Course.

The number of participants from the invited countries shall not exceed fifteen (15) in total. And the number of participants from Indonesia shall not exceed five (5).

(The number of participants in group course include all participants in the individual course).

8. NUMBER OF NOMINATION

8. NUMBER OF NOMINATION

Each invited country will be invited to nominate one (1) participant for individual course and two (2) participants for group course based on priority basis. The Indonesian Government is going to select the desired number of participants from the nominations.

9. COUNTRY REPORT

Each participating country is required to submit a country report which will provide the base of discussions in the Group Training Course.

10. QUALIFICATION OF APPLICANTS

Applicants should:

10.1. be nominated by their respective Governments in accordance with the normal procedure of application laid down by the Government of the Republic of Indonesia (as applied for the first year course).

10.2. be university (Faculty of Veterinary medicine/science) or its equivalent academic background.

10.3. have a good command of spoken and written English.

10.4. be citizens of the nominating countries.

10.5. be in good health, both physically and mentally, to participate in the course.

(Applicants for the individual course)

10.6. be Veterinary officers who have adequate background and knowledge in laboratory diagnostic technique or field animal health service experience in animal diseases.

(Applicants for the group course who will not participate in the individual course)

10.7. be veterinary.....

10.7. be veterinary officers who have adequate background and knowledge in animal health services.

11. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be conducted mainly at the Disease Investigation Centre in Medan.

12. L E C T U R E R S

The lecturers for both individual as well as group courses will be provided by the Indonesian Government who are either those working in the Directorate General of Livestock Services (DGLS) or those working in other institutions with qualified background.

Some candidates of lecturers from outside of DGLS are identified e.g.:

From Faculty of Veterinary Medicine - University of Gajah Mada Yogyakarta :

Dr. Soesanto - pathologist

Dr. Arab Bangun - bacteriologist

Dr. Setiawan Budiharto - epidemiologist

From Faculty of Veterinary Medicine - Bogor - Agriculture University :

Dr. Soehardjo - virologist

Dr. Singgih Harsoyo Sigit - parasitologist

From Veterinary Research Institute - Bogor :

Dr. Poernomo - virologist

Dr. Ginting - pathologist

Dr. Soetiono - parasitologist.

Besides, some

Besides, some overseas experts working in the technical aid projects e.g. D.I.C. Yogyakarta, D.I.C. Bukittinggi, Veterinary Assay Laboratory - Serpong also could be asked to present certain lecturers if needed, in consultation with the Japanese side.

Upon request of the Government of Indonesia the Japanese Government will consider to make available the services of a lecturer for individual course (e.g. virologist) and a lecturer for group course to assist the Indonesian teaching staff for the implementation of the second year course.

13. E Q U I P M E N T S

Some equipments needed for the course will be provided by the Japanese Government. The list of equipments which have been agreed upon by both sides during the last July 1984 missions, have been submitted to the Japanese side in 1984.

14. SCHEDULE OF COURSE OPERATION

Tentative schedule of course operation is attached in Annex II.

A N N E X : I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE INTERNATIONAL
COURSE ON DIAGNOSIS OF ANIMAL DISEASES AND
THEIR CONTROL PROGRAMME

(January)

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						26
				(February)		Arrival at Medan (Individual Course)
27	28	29	30	31	1	2
-Opening Ceremony	-Pathology lecture.	-Micro P.A (ND, Pull, IB, IBR, MCF, Ery- sipelas, Rabies ETC).	Lab. Work	-Lab. Work Discussi- on.	-Parasito- logy (lecture)	
-Orienta- tion/ Introduct	-Spec. Col- lection				-Gastro Int.	
-Welcome party	-Macro P.A. -Field ob- servation				-Blood Pari- sites. -Field Ob- servation.	
3	4	5	6	7	8	9
Lab. Work	Lab. Work -Discussion	-Bacterio- logy (Lecture) -General (SH, Bruc. Etc) -Isolation -Identifica- tion. -Other Test -Field obser- vation.	Lab. Work	Lab. Work -Serologic (Sat, CFT)	-Lab. Work Discussion	
10	11	12	13	14	15	16
-Virology (Lecture)	Lab. Work	Lab. Work Serology (NT)	Lab. Work Discussi- on.	-Epidemio- logy -Data Ana- lysis (Lecture)	Lab. Work -Statistics -Computer -Discussion	Arrival at Medan (Group Cour- se.
-General (ND, IBR, MCF ETC)						
-Isolation						
-Identifi- cation						
-Field ob- servation						

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
17	18	19	20	21	22	23
-Opening Ceremony Orientation/Introduction :	Presentation of country Report by Participants :			Field trip to Medan and Surrounding -DIC active Service.	Move to Padang Study trip to Bukittinggi.	Observation at Bukittinggi and surrounding.
-The Course -The Indonesian culture -Livestock Development Programme -Animal Disease Control Programme	-Animal Disease Situation, -Diagnosis Services and Organization Structure -Problem in Animal Health Services	Lectures on Data analysis -Epidemiology -Veterinary economics				
Welcome Party					(March)	
24	25	26	27	28	1	2
Move to Jakarta	Field trip to Jakarta/Bogor and surrounding	Move to Malang Study trip to Malang and surrounding -B type lab. -AI Centre -Dairy Cattle.	Move to Surabaya visit Centre for Veterinary Biologics Move to Jakarta	Preparation for final report	Presentation of final Report and Discussion	Free
3	4					
Presentation of Final Report and Discussion Closing Ceremony	Departure Jakarta.					

ANNEX : II

TENTATIVE SCHEDULE OF COURSE OPERATION

<u>MONTH</u>	<u>INDONESIAN SIDE</u>	<u>JAPANESE SIDE</u>
Middle June 1985	1. Preparation of G.1 2. Submission of Forms A-1.	1. Recruitment of Experts.
Middle July	1. Distribution of G.I. and Application Form	
Early November	1. Submission of Bill of Estimation. 2. Receiving of Application Forms.	1. Submission of B-I Form. 2. Dispatch of equipments.
Early December	1. Notification of the Selection of the Participants.	1. Remittance of Expenses.
Late January 1986	1. Implementation of Course.	1. Dispatch of Expert.
Middle February		1. Dispatch of Expert.
Late of March	1. Submission of statement of Expenditures. 2. Submission of Course Report.	

LIST OF ATTENDANCES

Indonesian Side.

(Directorate General of Livestock Services, Ministry of Agriculture).

- Dr. I.G.N. Teken Temadja Director, Directorate of Animal Health.
- Dr. Sukobagyo Poedjomartono Head, Subdirector of Animal Disease Surveillance, Directorate of Animal Health,
- Dr. Sofyan Sudardjat Head, Subdirector of Animal Disease Prevention Control & Eradication, Directorate of Animal Health,
- Mr. Paring Asmara Head, Administrative Section Directorate of Animal Health.

(Disease Investigation Centre, Region I Medan).

- Dr. Adat Peranginangin Head, Disease Investigation Centre, Region I Medan.
- Dr. Ronny Mudigdo Head, Bacteriology Section DIC Region I Medan.

Japanese Side

(Evaluation Team)

- Mr. Mitsuo Ishizaki Leader of the Japanese Evaluation Team, Head of Administration Division, Training Affairs Department, JICA.
- Dr. Takashi, Aoki Senior Investigator Quarantine Division Narita Animal Quarantine Office, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
- Mr. Katsuhiko Ebina Deputy Head of Second Training Division, Training Affairs Department, JICA.
(JICA Jakarta Office).
- Mr. Yukio Sasaki Assistant Resident Representative.

別添資料(3)

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

MAY 8, 1985

Dear Mr. Ritonga

Summary of Evaluation on the Third Country Training Programme in the Fourth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Seismologists, Volcanologists and Geologists.

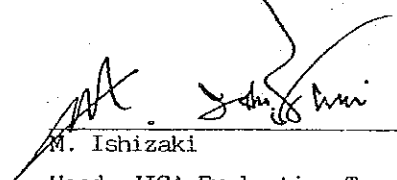
Thank you very much for your kind assistance and cooperation for conducting our duties there in Indonesia.

In this connection, I would like to submit to you a summarized report on our evaluation of the above captioned programme.

Your kind attention to the matter is highly appreciated.

Sincerely yours,

Mr. Sahac Mulia Ritonga
Director,
Institute of Human Settlements,
Agency for Research and Development,
Ministry of Public Works


M. Ishizaki
Head, JICA Evaluation Team

c.c.

Mr. Husen Adiwisastro
Chief, Indonesian TCDC Project,
Bureau of International Technical
Cooperation, Secretariat Cabinet,

BRIEF SUMMARY OF JICA QUESTIONNAIRE

I. OBJECTIVES

1. To what extent were you aware of the objectives of this training programme before you came to Indonesia?

Fully aware	20%
Almost aware	15%
Roughly aware	30%
A little aware	25%
Not aware at all	10%

2. Please indicate whether the main objectives were:

Completely met	5%
Almost met	35%
Fairly met	50%
A little met	10%
Not met	0%

3. In your opinion, to what extent was your expectation of this Course fulfilled?

Completely fulfilled	0%
Almost fulfilled	45%
Fairly fulfilled	45%
A little fulfilled	10%
Not fulfilled	0%

In view of the above results, JICA Evaluation Team conclude that:

1. With regard to awareness of the course objectives before coming to Indonesia 35 percent of the participants marked negative answer, although 65 percent of the participants marked positive one.

In this connection, we assume that some participants had not enough time to read through the course information (GI). Through an interview we learned that one (1) participant did not get GI, while three (3) other participants were informed of their final announcement of acceptance ten (10) days before their departure.

2. Achievement of main objectives and fulfillment of expectation of their course were almost satisfactory since 90 percent of participants answered "favourably".

II. CURRICULUM DESIGN

1. Coverage of the subjects

Just right	87%
Somewhat broad	19%
Too broad	4%
Somewhat incomplete	10%
Too incomplete	0%

2. Level

Just right	72%
Somewhat advanced	14%
Too advanced	0%
Somewhat elementary	14%
Too elementary	0%

3. Time allocation

(1) Lecture

Just right	48%
Somewhat much	14%
Too much	0%
Somewhat little	38%
Too little	0%

(2) Discussion

Just right	57%
Somewhat much	4%
Too much	0%
Somewhat little	10%
Too little	29%

(3) Exercises (Involvement of Participants)

Just right	33%
Somewhat much	0%
Too much	0%
Somewhat little	48%
Too little	19%

(4) Observation

Just right	67%
Somewhat much	23%
Too much	0%
Somewhat little	10%
Too little	0%

(5) Intensity

Just right	70%
Somewhat hard	10%
Too hard	10%
Somewhat leisurely	10%
Too leisurely	0%

(6) Duration

Just right	60%
Somewhat long	10%
Too long	5%
Somewhat short	25%
Too short	0%

In view of the above results, the team concluded that:

1. (Coverage and level of subjects)

One of the reasons why their opinion among the participants about coverage and level of subjects vary might come from the different specializations of the participants such as seismology, volcanology and geology.

2. (Time allocation)

It is advisable that time allocation for lectures, discussions and exercise (involvement of participants) perhaps should be increased to a certain extent by reducing observations.

3. With regard to intensity, it seems almost appropriate with 70 percent of the participants commenting on it as "appropriate".

III. COURSE CONDUCT

1. Teaching method

(1) Method of instruction and presentation.

good	46%
very good	41%
outstanding	10%
poor	3%
very poor	0%

(2) Communication (language)

good	49%
very good	35%
outstanding	6%
poor	10%
very poor	0%

(3) Trainees involvement and participation

good	57%
very good	29%
outstanding	7%
poor	7%
very poor	0%

(4) Quality and quantity of training material

good	48%
very good	36%
outstanding	8%
poor	8%
very poor	0%

(5) Quality and quantity of training facilities

good	72%
very good	12%
outstanding	2%
poor	13%
very poor	1%

(6) Total evaluation

good	57%
very good	33%
outstanding	7%
poor	3%
very poor	0%

2. Application of technique and knowledge

quite many	21%
fairly many	26%
many	42%
a few	11%
few	0%

In view of the above results, the team concluded that:

1. Every aspect of the teaching method, including method of instruction and presentation, communication, trainees involvement and participation, quality and quantity of training materials, quality and quantity of training facilities and total evaluation, was highly evaluated since more than 90 percent of the participants marked "satisfactory".
2. With regard to application of acquired techniques and knowledge, 89% of the participants replied that they could apply and adapt them, which convinced us that the Course was instructive and useful.

IV. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

1. Coordination

good	29%
very good	47%
outstanding	0%
poor	24%
very poor	0%

2. Pre-course information

good	56%
very good	11%
outstanding	0%
poor	22%
very poor	11%

3. Arrangements for observation trip

good	56%
very good	11%
outstanding	0%
poor	33%
very poor	0%

4. Housing and food accommodation

good	83%
very good	17%
outstanding	0%
poor	0%
very poor	0%

5. Allowances () ----- except Indonesian participants

reasonable	53%	(75%)
somewhat much	0%	(0%)
too much	0%	(0%)
somewhat little	37%	(25%)
too little	10%	(0%)

6. Transportaion

good	63%
fairly good	21%
very good	11%
poor	5%
very poor	0%

7. Social programme

good	58%
very good	26%
outstanding	0%
poor	11%
very poor	5%

8. Communication among participants

good	61%
very good	33%
outstanding	0%
poor	6%
very poor	0%

In view of the above results, the team concluded as follows.

1. Coordination of the course was almost satisfactory, however some improvement will be required since a quarter of the participants commented on it as "poor".
2. With regard to pre-course information, much attention should be paid to the results which show that 33 percent of the participants answered pre-course information was poor.

It is essential for the organizer to give an enough pre-course information to the participants in order to implement the training course effectively.

As mentioned earlier (see I-1), one of the reasons of the results might be attributed that some participants did not read GI and/or were informed of their final announcement of acceptance just before their departure.

3. With regard to arrangement for observation trip, some improvements will be necessary to facilitate the participants learn much from the experienced lecturers on the field work basis.
4. With regard to social programme it was appreciated. However, more opportunities should be provided in order to promote friendly and co-operative relationship among participants, organizer and lecturers as the recommendation submitted by participants pointed out.
5. With regard to housing and food accommodation, transportation and communication among participants, they were highly appreciated.

V. TRAINING OUTCOME

With 100% answering that they could attain necessary technique and knowledge from the course, the training outcome proved to be satisfactory.

RECOMMENDATION BY THE PARTICIPANTS
OF THE FOURTH INTERNATIONAL ADVANCED COURSE
ON SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING FOR SEISMOLOGISTS,
VOLCANOLOGISTS AND GEOLOGISTS

JANUARY 12 to FEBRUARY 26, 1985

To disseminate and share the available knowledge and technology in mitigating the most sever natural hazard — the Earthquakes, the government of Japan and government of Indonesia jointly agreed upon a cooperative programme on an International basis under the Third Country Training Programme. Hence, the holding of the fourth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Seismologists, Volcanologists and Geologists. This course is entirely sponsored by the Government of Japan through JICA and hosted by the Government of Indonesia through the Institute of Human Settlements (Agency for Research and Development, Ministry of Public Works).

A total of 26 (12 overseas and 14 local) participants took part in the fourth International Advanced Course representing 12 countries i.e. Algeria, Bangladesh, Fiji, India, Indonesia, Kenya, Malaysia, Pakistan, Papua New Guinea, Philippines, Thailand and Turkey.

Persuant to the desire of the Organizing Committee, we record our impressions and recommendations for such course in future as follow :

THE COURSE

Considering the purpose of this course as mentioned, we the participant, feel that it is a most beneficial advanced course in introducing and exchanging the up-to-date knowledge in the field of seismology, volcanology and geology. To have a good impact and real outcome :

1. The course should be balanced - considering the different specializations of the participants.
2. The lecture on the theory of seismology and earthquake engineering should cover many points, such as detailed aspects on geology; seismotectonics may also be covered in the course.

3. As being an International Course for Developing Countries, lecturers from other countries in related fields may also be invited.
4. There should be more involvement of participants in the course in the form of workshop.
5. The course should be structured so that participants would take the actual practical training hence, either the course subjects should be reduced or duration should be increased.

SOCIAL ASPECT

To increase the cooperation and friendship among the organizers, lecturers and participants, more social and cultural exchange is required through presentation of slides in the evening meetings or after the last lecture each day.

T O U R S

The tours should be organized on the field workshop basis so that participants actually observe and learn from the experienced lecturers about the phenomenon of geology, volcanology and seismology.

Tours to other parts of Indonesia should also be conducted to know the process of accretionary wedge and back arc of plate tectonics and the effect of this active zone in the field ——— As this is the only region where such processes are active.

ACCOMMODATION AND OTHER EXPENCES

1. Considering the difficulties of the participants the Organizing Committee should try to arrange good and cheaper accomodation through their own organizing skill.

2. The participants fellowship should be based on the fluctuation of local rates or price index. The fellowship should also be increased according to the present standards and price index.

3. All the participants (including the local) should be treated equally in all respects. As all the participants are selected on equal basis for JICA fellowship.

4. Foreign participants are only allowed 20 kg weight by air, but lecture notes increase the load by another 15 to 20 kg which is surcharged. Shipping costs for these should be borne by the sponsors, as the per diem allowance does not cover this.

5. A clear mention may be made in the circular about the reimbursement of unexpected incidental expenditure on way. As the participants government does not pay any funds after boarding the plane from the International Airport to the host country.

6. The Organizing Committee should write to their Embassies in participants country to issue the visa for the required time to avoid later complications.

7. Considering the difficulties in getting a direct flight back to participants' country from Jakarta and available time with the participant, the organizing committee should either depute a person to look-after the return of the participants or some local travel agent should be contacted to avoid any complications and delay.

8. Library facilities should be provided in the institute till evening i.e. after the office hours, so that participants find place to sit and improve upon the final presentation of reports.

We, the participants, of the fourth International Advanced Course on Seismology and Earthquake Engineering for Seismologists, Volcanologists and Geologists, are very grateful and obliged to Prof. I. Yokoyama,

Prof. S. Hattori, Prof. K. Oike, Dr. K. Sudo, Dr. H. Hiraishi and Mr. S. Nakata - lecturers from Japan and to Prof. J.A. Katili, Prof. N.T. Zen, Dr. A. Soedradjat, Mr. Teddy Boen, Mr. Wiratman Wangsadinata and Mr. R.P. Sudarmo - lecturers from Indonesia, for sparing their valuable time to share with us their experiences and knowledge to find the solutions to mitigate the natural hazards. We heartily appreciate and are thankful to the sincere efforts of the staff of Mr. S.M. Ritonga, Director and Chairman of Organizing Committee at the Institute of Human Settlements. The concern shown for the cause of humanity by the JICA is gratefully acknowledged.

Last but not least, we can never forget the affectionate behaviour of Mr. Victor Leander and Mr. Sumani K. who untiringly looked after our comforts for this brief stay in Indonesia.

JICA